

31

192

英國

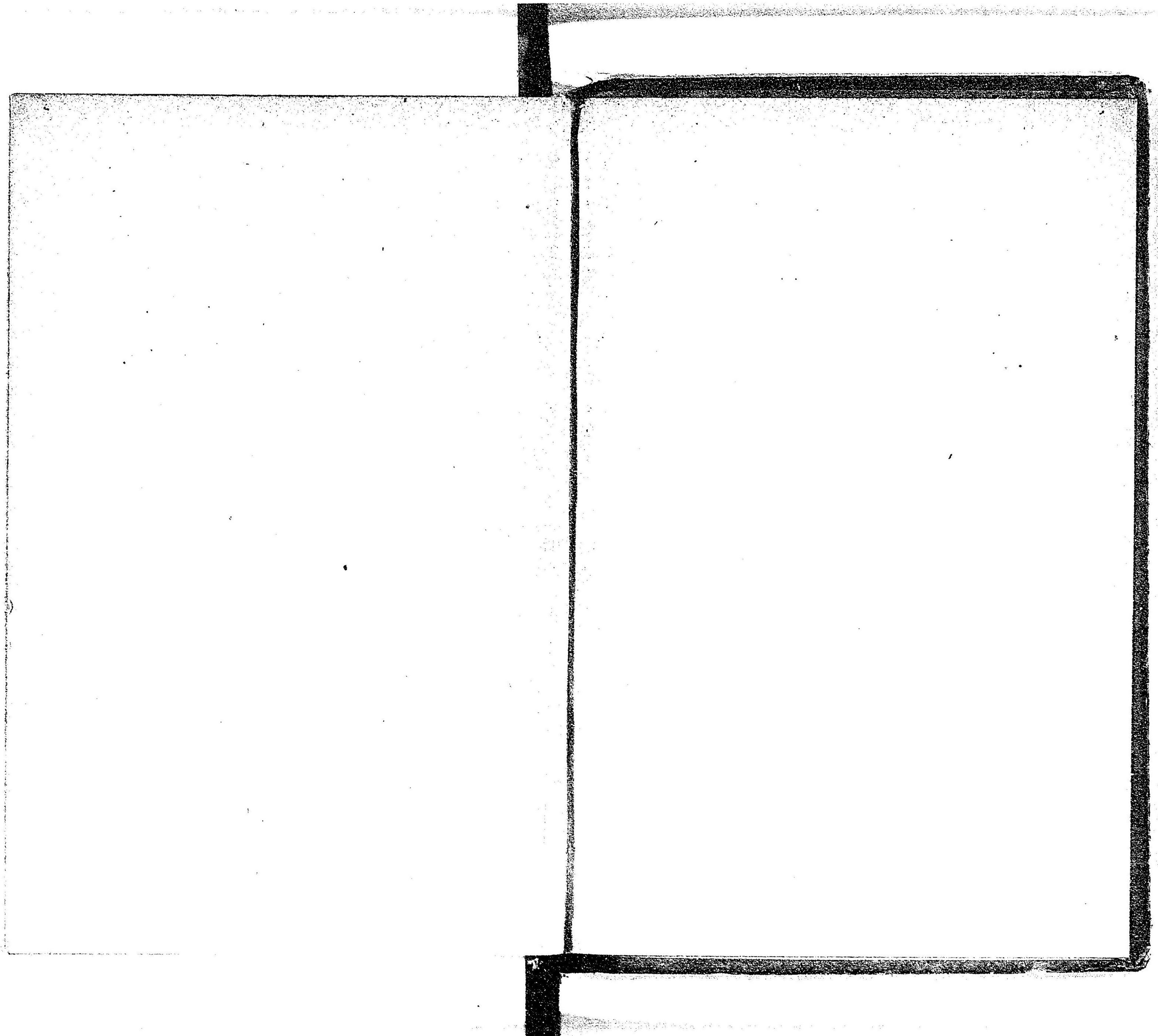
ホワートン・ビンセント 著

日本

金子堅太郎 閱
佐藤覺四郎 譯

讓謗法論 全

佐藤氏藏版



英國

日本

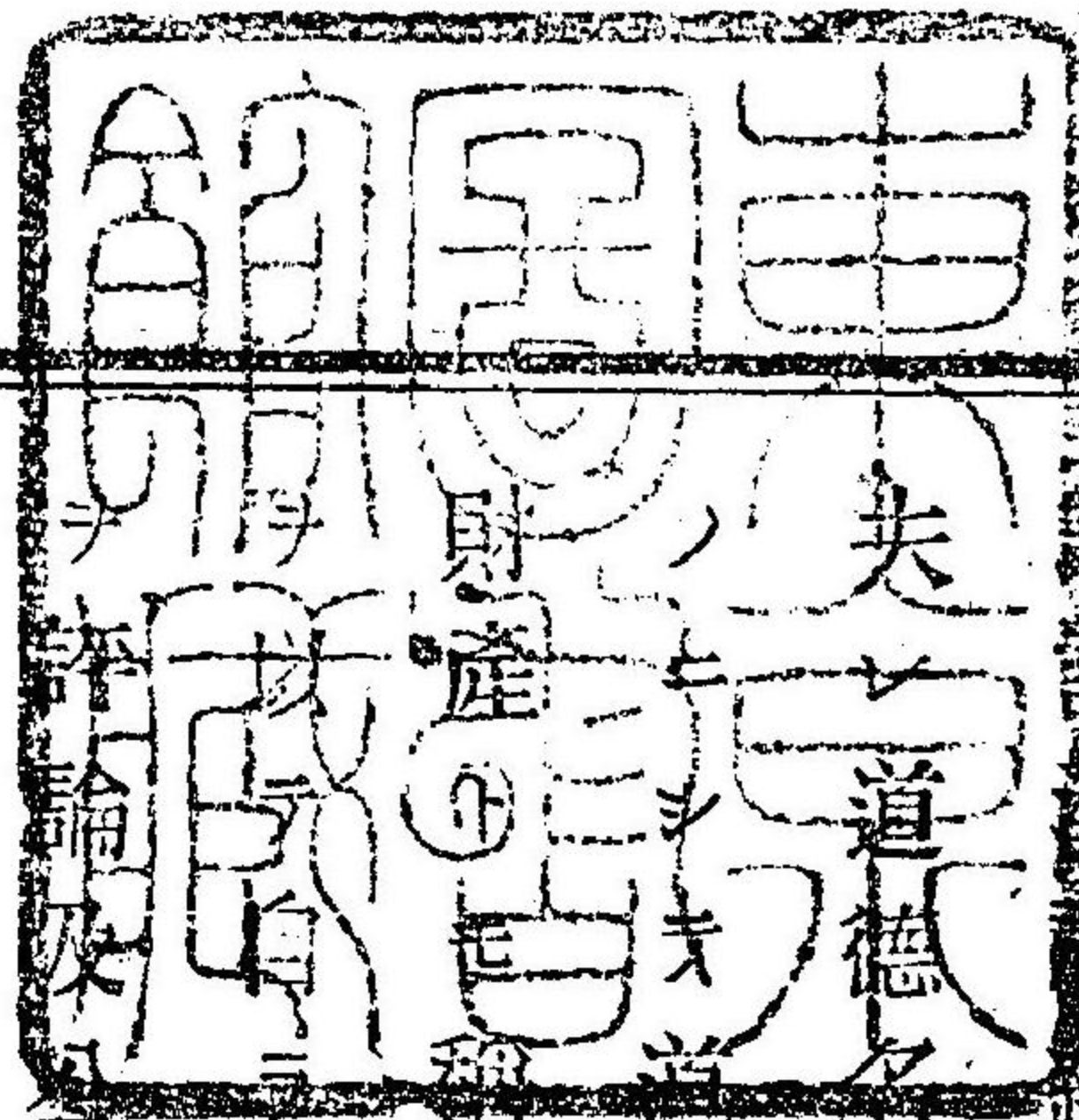
ホワード・ビンセント 著

金子堅太郎 閱

佐藤覺四郎 譯

讒謗志論 全

佐藤氏藏版



讒謗法論緒言

夫道徳名譽ノ二者ハ人生一日モ欠ク可カラザルモ
 道徳ハ社會ノ條綱ト云フベク名譽ハ無形ノ
 財産トモ稱スベキモノナリ故ニ世ノ著述家新聞記者
 任ズルモノハ誠意善心ヲ以テ公平ニ百事
 ナ評論及出版ス可キモノナルニモ拘ハラズ或ハ自家
 私欲ノ爲メニ眩惑セラレ世ノ木鐸タルノ責任ヲ顧慮
 セズ惡意ヲ以テ人ノ私行ヲ摘發公布シ以テ不慙ノ利
 ナ綱セント欲シ自ラ道徳法律ノ罪人トナリ或ハ誠意
 忠實ヲ以テ時事ヲ痛論スルモ過テ法網ニ罹ルノ著述

緒言

家新聞記者其人ニ乏シカラザルハ豈慨歎スベキニア
ヲズヤ
眼ヲ轉ジテ社會ノ現状ヲ諦觀スルニ世人動モスレバ
自ラ貴重ナル名譽ヲ毀損シ若クハ他人ノ爲メニ傷害
セラル、モノアリ其身自ラ毀損スルハ之ヲ如何トモ
爲スト能ハズト雖モ他人ノ爲メニ傷害セラル、ニ至
テハ法律上ノ救正ヲ要求スベキモノトス而シテ其救
正ヲ要求スベキニ要求セズシテ空ク己レノ權利ヲ枉
屈シ之ニ反シテ其救正ヲ要求ス可カラザルニ要求シ
テ徒ニ自家ノ資財ヲ消耗スル者アルハ豈痛惜セザル

可シヤ

凡ソ物アレバ必ズ因アリ彼ノ著述家新聞記者ノ私利
ヲ網セント欲シテ自ラ道德法律ノ罪人トナリ世人ノ
法律上ノ救正ヲ要求ス可カラザルニ要求シテ徒ニ自
家ノ資財ヲ消耗スルコトアルハ道德的感情法律的知識
ノ普及セザルニ由ルト雖モ抑又誹毀讒謗ニ關スルノ
法理ヲ論述シタル著譯書ノ寡キニ職由セズンバアラ
ズ是レ余ノ謏劣ヲ顧ミズシテ此書ヲ譯述スル所以ナ
リ
此書ハ英國ノ法學家ホワード、ビンセント氏ノ著ニシ

テ西曆千八百七十六年倫敦ノ刊行ニ係リ原名ヲ「ロウ、
オフ、クリチシズム、エンド、ライベル」ト曰ヒ誹毀讒謗ニ
關スルノ法理ヲ論述スルモノニシテ書中分テ四篇ト
ナシ第一批評第二特許ノ通信第三讒謗ノ詞訟第四讒
謗詞訟ノ辨護是ナリ竊ニ冀フ著述家新聞記者タルモ
ノ之ヲ見テ道德及法律上ノ罪人タルヲナク世人ハ之
ヲ見テ無益ノ詞訟ヲ起サズ人生至重ノ道德名譽ノ二
者ヲ保有スルヲアラバ幸甚

明治十六年五月

佐藤覺四郎 誌

讒謗法論

目次

- 第一篇 批評
- 第二篇 特許ノ通信
- 第三篇 讒謗ノ詞訟
- 第四篇 讒謗詞訟ノ辨護

議 論 法 論

第 一 篇 批 評

英 國

ホワード、ビンセント

著

日 本

金子堅太郎

閱

佐藤覺四郎

譯

批評即チ事物ヲ評論シ意見ヲ吐露シ以テ精細ニ事理ヲ判定スルコトハ一記者タルモノ、至緊至難ナル職掌中ノ一ナリトス而シテ批評ノ行爲中ニハ自ラ至大ナル德義上ノ責任ヲ包含スルモノナリ然リト雖モ此ノ如キ至大ノ責任アルコトモ拘ハラズ各新聞紙及各人ハ常ニ批評ヲ爲シ又各人モ絶エズ批評ヲ蒙ルベキ機會ヲ備フルモノナリ且ツ人ノ

誰タルヲ問ハズ苟モ己ノ所見ヲ吐露シテ輿論ニ質ス所
ノ人ハ自ラ世人ノ批評ヲ招クニ至ルハ勢止ム可カラザル
モノト謂ハザルヲ得ズ
抑批評トハ唯其事物ヲ非難スルニ止ラズ又之ヲ稱讚スル
ノ謂ナリト雖モ通常多クハ非難ノ意義ニノミ用ヒラレタ
リ而シテ其非難ノ意義ニノミ用ヒラル、ノ可否ハ姑ク論
ゼズ法律ノ吾人ニ告グル所ニ據レバ批評ハ考究スベキ事
物ノ問題ヲ公平ニ評論スルト限定セザル可カラズト批
評者ハ己ガ之ヲ評論スベキ地位ニ坐スルヲ以テ手段トシ
毫モ私ノ怨ヲ逞フセントスルノ念慮アル可カラズ且正當
ノ理由ナキニ惡意ヲ以テ汚名ヲ人ニ蒙ラス可カラズ又批
評者ハ時機ニ乗リテ邪曲ノ目的ヲ達センコトヲ企圖シ若ク

ハ輕忽ニ鹵莽ノ論議ヲ爲スニ至ル可カラズ抑各個人凡百
ノ行爲ハ必ズヤ自然ニ批評ノ問題タルベキモノナレバ之
ヲ批評セント欲スルニ於テハ各人自由ニ之ヲ批評シ得ベ
キノ權利アリ而シテ善意ヲ以テ之ヲ批評スルニ至テハ其
批評ニ制限アルコト無シト雖モ而モパロンオルデルソン曰
ク「上帝ハ人類ガ假令ヒ公義誠實ノ心ヲ以テ批評ヲ爲スニ
モセヨ其凡百ノ行爲ハ之ヲ批評スルコトヲ許サザル可シト
制禁シタリ」ト且讒謗ト批評ト其區別稍錯雜セルノ故ヲ以
テ單ニ讒謗ヲ批評ト稱シ讒謗人ヲ批評者ト稱シ以テ讒謗
ニ適用スル規則ノ範圍ハ之ヲ脱スルコト能ハザルモノト知
ルベシ
吾人ハ今左ノ七項ニ就テ批評ヲ論述スベシ

- (イ) 政府及公人按公人トハ官吏及國會ニ對スルノ批評
- (ロ) 裁判管理ニ對スルノ批評
- (ハ) 國會ノ經行ニ對スルノ批評
- (ニ) 一個人ニ對スルノ批評
- (ホ) 書籍及出版物ニ對スルノ批評
- (ヘ) 滑稽演戲ニ對スルノ批評
- (ト) 批評ノ方法

政府ニ對スルノ批評

吾人ハ嘗テ之ヲ先哲ニ聞ケリ政府ノ生命ハ名譽ナリト宜ナル哉此言ヤ故ニ立憲諸國ニシテ若シ政府ヲ維持シ施政ヲ快活ナラシムルニ必要ナル人民ノ輿論ノ歸セザル政府アル時ハ其政治ハ必ズヤ優游不斷ニ陷ルノ弊ヲ免レズ隨

テ其政府ハ無權威ニ其政治ハ無效驗タラザラント欲スト雖モ得ベカラザルナリ然リ而シテ自由ノ各人ハ己レノ欲スル所ノモノヲ天下公衆ニ吐露スルノ權利アルハ敢テ疑ヲ容ル可キ所ニアラズト雖モ若シ其人ニシテ誤謬若クハ非理ニ出デタル言ヲ天下公衆ニ公布スルヲアランニハ彼レ固ヨリ其責ニ任セザルヲ得ズ

憲法ヲ改良セント欲スル真正ノ誠意ヲ以テ憲法ノ一部分ヲ批評スルコトハ英法ノ敢テ禁ズル所ニアラズ然リト雖モ擾亂ヲ鼓舞シ人民ノ不平ヲ煽動シ英國ノ現立政府ヲ凌辱輕蔑シ其施政ヲ誹毀シ若クハ或手段ニ依テ其職ヲ行フコトヲ妨害セントスルノ攻撃ハ之ヲ稱シテ叛逆ノ讒謗ト云ヒ總テ此類ノモノハ刑罰ヲ免ルコト能ハザルモノトス

政論記者ニハ法律上常人ト異ナリ特殊ノ自由ヲ允許セリ
之ヲ例セバ法律ノ關スル所ハ只其論旨ノ公明正大ナル論
議ノ限界ヲ超過シタルヲ明カナル時ノミニ限レルモノ
トス而シテ這邊ニ非難ノ字句ヲ書シ那邊ニ詭激ノ議論ヲ
發スルモ其全文ヲ以テ叛逆ノモノト看做スニ至テハ殆ド
稀ナリ今其實例ヲ舉レバ則チレツキスヨリリープスニ對
スル詞訟是ナリ此詞訟ニ於テ大判官ロルドケンヨン陪審
官ニ命ヅテ曰ク陪審官ハ告訴狀ニ記載セラレタル特殊ノ
章句ニ就テ斷案ヲ下スハ固ヨリ其常ナリト雖モ亦全體ノ
文章ト告訴狀ニ記載セル所トヲ對照シ全體ノ文章ノ連續
ヨリ考察シ來レハ告訴狀ニ記載スル所ノ章句ハ如何ナル
性質ノモノナルヤヲ辨別セザル可カラズト

又レグヨリサリパンニ對スル詞訟ニ於テモ判官フツゲラ
ルド其所見ヲ開陳シテ曰ク爰ニ人アリ新聞記者ハ如何ナ
ル事ヲ爲スベキヤト問ハム余ハ將ニ答テ曰ハントス新聞
記者ハ凡百ノ事物ヲ評論スルヲ得且苟モ己ガ職掌ニ於
テ適當ナリト思テスル事件ニ於テハ政府ノ處置ヲモ之ヲ
批難スルヲ得ベク又政府ノ行爲及其政策ニ就テ之ヲ議
論スルノ自由アリ而シテ此事タル固ヨリ新聞記者ノ職掌
内ニ在リト雖モ其之ヲ爲スニ方テハ必ズヤ穩當着實ノ語
ヲ用ヒザル可カラズ而シテ政府ノ行爲ヲ批評スルノ人ハ
其心衷毫モ惡意ヲ挾ム可カラザルハ勿論政府施政ノ宜キ
ヲ得ザル時ハ之ヲ指摘痛論スルヲ得ベシト雖モ國法ヲ
凌辱スルノ言語ニ至テハ決シテ之ヲ用フベカラズ若シ夫

レ新聞記者ニシテ社會ノ秩序ヲ紊亂シ人民ノ不平ヲ鼓舞
セントスルノ惡意ヲ以テ己ガ特權ヲ濫用スルキハ彼レ新
聞記者ハ叛逆ノ罪人タルヲ免レント欲スト雖モ得可カ
ラザル所ナリト

公人ニ對スルノ批評

一自由國ニ於テ公人ノ行爲及政府處置ノ傾向ヲ論議シ又
忌憚ナク主治者ノ舉動ヲ批難シ及政府ノ政畧若クハ其計
較ヲ探究スル權利ノ必要ナルヲハ誰ソカ又之ヲ疑フモノ
アラシヤ

故テ以テ公人ノ(人身ニ非ズ)行爲ハ格段ニ批評ヲ蒙リ易キ
モノナリブランウエル、ビー氏言ヘルヲアリ曰ク各人ハ公
共ノ利害ニ關スル事件ヲ講究スルノ權利ヲ有セリ而シテ

衆僧及教長艦隊及其提督軍隊及其將帥陪審官及判官等ハ
最モ評論ノ問題タルベキモノニシテ要スルニ苟モ公然ノ
位地ヲ占有スル所ノ人ハ必ズヤ評論ノ問題ヲザルヲ得
ザルベシ而シテ公人タルモノハ評論ヲ以テ其職務ニ附着
スル不快的ト思考スベシト雖モ是レ亦必要ノモノナリト
シテ宜ク之ヲ甘受セザル可カラズ英國ニ於テハ百事公衆
ノ利害ノ爲メ演說若クハ文章ノ手段ヲ以テ之ヲ評論スル
ヲ得ベシ故ニ人アリ若シ新聞紙或ハ其他ノ方法ヲ用ヒテ
公共ノ利害ニ關スル事件ヲ穩當着實ニ評論スルトハ讒謗
ノ詞訟ヲ起スノ問題トナルヲナシト又公人ノ公行ハ就中
最モ自由ニ之ヲ評論スルヲ得ベシ而シテ若シ記者ノ言
語ニシテ其職掌ヲ盡サントスルノ誠意ニ出デタル邪則チ

假令ヒ幾多ノ駁撃ヲ受クベキモノニモセヨ決シテ讒謗害
心ノ説ヲ公布シタリト爲スヲ得ズ
而シテ此ノ如ク論ヲ來レバ如何ナル人ヲ以テ公人ト爲ス
ヤノ疑問必ズ起ラザルヲ得ズ公人トハ則チ公務ヲ施行ス
ル人ノ謂ナリ詳ニ之ヲ説クハ其職務ニ於テ公共ノ利害相
關スル人ト解釋セザル可カラザルナリ
夫レ一私人ニ適用スルコト能ハザル所ノ批評ト雖モ若シ之
ヲ公然ノ性格ヲ以テ事ヲ處スル所ノ公人ニ適用スルニ至
テハ敢テ道理ノ間然スル所ニアラズ且或場合ニ於テハ公
人ノ私行ト雖モ亦批評ヲ免レザルコトアリ之ヲ例セバ某公
人ハ名譽アル人ナリヤ或ハ正廉ノ士ナリヤ否ヤト其人ノ
身上ニ就テ評論スルガ如シ夫レ然リ而シテ公行ニ就テノ

批評ト其公行ノ由テ起リタリト假定スルヲ得ベキ其人ノ
意志ニ就テノ批評トハ其間宜ク一線ヲ畫セザル可カラズ
而シテ何人ト雖モ陪審官ノ見テ以テ罪トナシ又己ガ記載
スル所ハ眞ニ實事ナリト自心之ヲ信認スルノミナラズ其
之ヲ實事ナリト信認スルニ其理由ノアルアルニ非ザルヨ
リハ假令ヒ其人ノ所爲タル公衆ノ爲メニ嘲罵シ嫌忌シ且
汚辱セラレ故ラニ其惡意ヲ以テ評セラル、ニ任スト雖モ
決シテ他人ヲ非難スルノ權利アルコト無シ
ロルドエレンボロー曰ク英國ノ臣民ハ公人ノ暗愚即チ不
能ヲ表明スルノ權利アリ然リト雖モ是ガ爲メ一個人ノ權
利ヲ毀損スルハ法ノ許サバル所ニシテ此犯罪タル刑法ノ
問ヲ所ナリト又曰ク若シ裁判廳ニシテ名譽ヲ毀損スルノ

批評ヲ一理由ダモナク濫ニ罰スルヲアテシニハ英國ノ安
 寧ヲ以テ其目的トスル名譽アル人ハ國事ヲ管理スルヲ能
 ハザルベシ故ニ余ハ公人ニ對スルノ批評ニ關スル法律ハ
 公人ノ公行ニシテ批難セラレタル場合ニ於テ陪審官ノ見
 テ以テ批評シタル記者ハ公平正當ノ意ヲ以テ之ヲ爲シタ
 リトスルキハ詞訟ヲ起ス可カラズトスルヲ以テ適當ナリ
 ト思考ス此事タル一記者ガ公人ノ行爲ハ不正ナリト世人
 ノ爲メニ狐疑セラル、ヲ以テ己レ亦之ヲ不正ナリトシ其
 名譽ヲ攻撃スルヲ依テ己レヲ潔クスト想像スルガ故ニ
 ハ非ザルナリト

裁判管理ニ對スルノ批評

レクヨリサリパンニ對スル詞訟ニ於テ判官フツゲラルド

陳述シテ曰ク法律ノ施行ニ關シ之ヲ論究スルハ固ヨリ一
 新聞記者タルモノ、職務ナリ而シテ裁判應ノ經行ヲ評論
 スルニ至テハ新聞記者ハ能ク其事實ニ注意シ己レノ信ズ
 ル所ヲ以テ公明正大ニ其意見ヲ吐露セザル可カラズ若シ
 夫レ之ニ反シテ偏頗ナル意見ヲ以テ裁判ヲ施行スル所ノ
 人ヲ譏謗スルヲアラハ是レ則チ新聞記者ガ評論ノ正鵠ヲ
 失ヒタルモノニシテ此ノ如キ新聞記者ハ譏謗ノ詞訟ヲ起
 サル、トモ決シテ之ヲ辭スルヲ得ズト又判官ブルラー曰
 ク裁判應ヲ批難スルハ公共ノ安寧ヲ害スル者ナリ而シテ
 其安寧ヲ保護セントセバ必ズ其批難ヲ阻遏セザルベカラ
 ズ是レ公共ノ安寧ヲ保護スルニ於テ最モ至緊至要ノ事ト
 ス其故何ゾヤ判官タリ陪審官タル者時ニ或ハ其判斷ヲ誤

ルコナキニシモアラズト雖モ此ノ如キ場合ニ於テハ法律
 ナルモノ之ヲ救正スルノ方法ヲ與ヘタリ即チ誤判ノ爲メ
 ニ害ヲ蒙リタル詞訟關係人ハ法律許ス所ノ方法ニ從ヒ其
 誤判ヲ救正スベキ各種ノ手段ヲ取レバナリト
 諸裁判廳ニ起リタル經行ヲ報告スルニ方リ其報告ヲシテ
 法律ノ保護ヲ享受セシメンニハ其裁判廳ニ出庭シタル詞
 訟關係人ノ名譽ニ有害ナル批評ヲ爲ス可カラズ且其報告
 ハ宜ク公平精密ヲ以テ之ヲ爲サザル可カラズ若シ夫レ之
 レニ反シ僅少タリトモ批評ヲ爲スコアラソニハ法律上ノ
 保護ハ之ヲ享受スルコト得ズ然リ而シテ若シ批評ヲ爲サ
 ント欲セバ宜ク報告ト之ヲ混淆ス可カラズ其故何ントナ
 レバ報告ナルモノハ裁判廳ニ於テ起リタル事件ヲ報告ス

ルニ止リ評論トハ自ラ之ヲ區別セザル可カラザルヲ以テ
 ナリ

又審問ノ報告ヲ爲スニ方リ法律ノ保護ヲ享受セント欲セ
 バ善意ヲ以テ精密ニ之ヲ報告セザル可カラズ然レドモ此
 報告タル審問中ニ起リタル凡百ノ事ヲ悉皆記載スルニ及
 バズ又同語ヲ以テスルヲ要セズ唯若シ之ヲ畧記スルニ方
 テハ公平無偏ノ心ヲ以テスルヲ緊要トス
 原被兩造中其一方ノ者ノ爲メニ代言人ノ申供シタル如キ
 詞訟ノ事情ヲ列記シタル報告ハ條理ニ適シタルモノニア
 ラズ故チ以テ其報告タル確實ナルモノト爲スニ足ラズ又
 凡テ己レノ申供シタル事ハ判官ガ聽テ以テ實事ナリト許
 ス所ナリト云ヒシガ如キコト代理人ノ演說中ニ加記シタ

ル報告ハ猶以テ信ヲ置クニ足ラザルナリ而シテ裁判ノ未
 ダ結了セザル以前ニ方テ詞訟關係人ノ一方ヲ援助センガ
 爲メ之ガ批評ヲ下シテ公衆ノ意向ヲ偏頗ナラシムル如キ
 所爲ハ裁判廳ヲ輕慢シタルモノト謂フベシリツトライヨ
 リタムソンニ對シタル詞訟ノアリシ時某新聞記者ハ該法
 院ノ處置ヲ錯雜ニシテ無主義ナリト記載シ且此處置タル
 本ト證據人ノ偽誓ニ惑ハサレタルモノナレバ必ズ他ノ爲
 メニ告訴セラル可ク又告訴セラル、トテ望ムノ意ヲ以テ
 之ヲ記述シタリシガ即チ裁判廳ヲ輕慢シタルノ罪ナリ
 ト判定セラレタリ又フエルキンヨリハトニ對スル
 詞訟ニ於テ詞訟未決ノ時ニ方リ一證據人トナリタル者ニ
 詐僞怠慢若クハ私利アリトノ汚名ヲ蒙ラシメタル者ハ亦

裁判廳ヲ輕慢スルノ有罪ト確定セラレタリ
 一審問ニ方テ某證據人ハ偽誓ヲ行ヒタリト云フト暗示
 スルコトスラモ猶且之ヲ爲ス可カラズ且裁判管理ヲ嘲弄ス
 ルノ目的ヲ以テ審問ニ關係シタル判官若クハ陪審官ノ舉
 動ヲ非難シ若クハ某判官某陪審官ノ決斷ハ惡シト云フガ
 如キ非難ハ裁判廳ニ對シテ大ニ輕慢ヲ與ヘタルモノト謂
 フヘシ
 夫レ然リ而シテ公益ニ關スル審問ニ方リ特殊ノ證據人ガ
 證明シタル證據ニ就キ出版ヲ以テ之ヲ評論スルニハ假令
 ヒ其評論タル暗ニ其證據ハ確乎タル基礎モナク警意モナ
 シ且不注意千萬ナリト云フト雖モ妨ゲアルコトナシ然レモ
 若シ之ヲ評論スルニ深慮ヲ加ヘズ或ハ惡意ヲ以テ此證據

ハ詐偽ナリト云フガ如キ無根ノ非難ヲ爲スルハ其批評タル決シテ讒謗ノ罪ヲ免レズ
 往昔ニ在テハ原被兩造中ノ一方ノモノニ關シタル郡吏ノ處置ヲ公布スルハ許ルシ、所ニアラザルナリ何トナレハ是レ法律ノ尙ホ無罪ト假定スル人ヲ害シ及法律ノ原旨ヲ毀傷スルノ傾向アルヲ以テナリ然リト雖モ現今ニ至テハ被告ガ保釋ヲ申渡サレ若クハ審問ヲ爲ス可キヲ申渡サレタルヲ以テ終ル郡吏ノ處置ヲ公平精密ニ報告スルハ法律ノ敢テ問ハザル所タルヤ疑ヒナシ
 裁判廳ニ於ケル豫審ノ經行ヲ報告スルニハ潤色ヲ加ヘズ其在リノ儘ニ證據中ニ顯ハレタル實事ヲ記載セザル可カラズ而シテ其報告中ニハ被告ノ有罪ヲ指定シ若クハ之ヲ

確定スル如キ其效果ヲ記入ス可カラズ且被告ノ提供シタル事件ノ辨解ヲ是非スル如キ實事ノ效果ヲ記載スルハ最も不可トスル所ナリ此事タル一千八百十一年ニ於テ
 ドエレンボロノ審問シタルレツキスヨリフツシヤニ對スル詞訟ヲ以テ充分ニ説明セテレタリ即チ左ニ記スル如キ事情アルヲ以テフツシヤハ其出版シタル讒書ノ爲メニ告訴セラレタリ而シテ其事情ハ某船舶ノ船長タル者ガ一貴女ヲ強姦シタリト云フ故ヲ以テ告訴セラレ而シテ該船長ハ保釋ヲ許サレタル時ニ方リ被告フツシヤハ其新聞紙ニ之ヲ報告スルニ唯豫審中ニ取ラレタル證據ト告訴ノ性質トヲ記載スルニ止マラズ又公衆ヲシテ該船長ヲ厭忌スルノ心ヲ起サシムルノ傾向アル註解ヲ挿入シ此經

行ヲ潤色シテ以テ之ヲ記載シタルニ在リ而シテ其陪審官
 ナ命ズルノ時ニ方リロルドエレンボロー之ガ説ヲ開陳シ
 テ曰ク此出版ハ被告即チ船長ノ有罪若クハ無罪ニ關シ他
 ノ人心ヲシテ偏倚スル所ナカラシムルヲ得ベキヤ蓋シ此
 ノ如キ潤色ヲ加ヘテ以テ其人ノ不行狀ヲ報告セバ之ヲ讀
 ム者必ズヤ其人ヲ賤ムノ感情ヲ起ササルヲ得ズ抑此報告
 タル公平無偏ノモノト謂フベキ乎其事陪審官ノ決斷ヲ下
 シタル後始メテ公平ノ決斷ナルベキニ其未ダ然ラザルニ
 先チ之ガ有罪ヲ決定シタルモノト謂フベシ此報告ハ總テ
 彼貴女ノ云フ所ノミヲ以テ是レ信ナリトシ且彼船長ハ己
 レモ亦其有罪ナルヲ自覺セリト記セリ夫レ公平無私ノ
 心ヲ以テ報告スルノ區域ハ固ヨリ廣シト雖モ此報告ノ如

キニ至テハ豈之ヲ不問ニ措クヲ得ベケンヤ陪審官及判官
 モ亦是レ人ナリ決シテ神ニハ非ザルナリ故ニ亦此ノ如キ
 人心ヲ蠱惑スル言語ニ刺衝セテレタル感情ハ之ヲ制スル
 能ハズ且夫レ陪審官及判官ニシテ此ノ如キ刺衝ヲ受クル
 事ハ亦或ハ不正ノ判斷ヲ爲スヤモ測ル可カラザルナリト
 新聞記者タルモノハ充分ニ郡吏ガ證據ヲ聽カズシテ重罪
 ノ告訴ヲ棄却シタル行爲ヲ論究スルヲ得且告訴ヲ維持
 センガ爲メニハ證據ヲ批評スルヲ得ベシト雖モ若シ新
 聞記者ニシテ難爲證據實事ヲ引證シ以テ該告訴ハ確實ナ
 ル理由アリト云フヲ證明セント企圖スルキハ其新聞記
 者タル者被告ノ爲メニ詞訟ヲ起サル、モ之ヲ辭スルニ由
 ナカルベシ

此項ヲ收結スルコ方テ一言スベキナリ即チ裁判廳ノ經行ノ公平ナル報告ノ首ニ「醜哉檢事行爲」ノ如キ譏謗ノ性質ヲ有スル標題ヲ掲グ可カラザルコ是レナリ而シテ檢事豫審ノ經行ヲ報告スルニ方テハ必ズヤ「假定」ノ字ヲ前加言トスベシ何ントナレバ檢事ノ爲メニ豫審ヲ受クル被告ノ有罪無罪ハ未ダ確定セザルヲ以テナリ

國會ノ經行ニ對スルノ批評

國會ノ經行ニ關スルノ報告ハ裁判廳ノ經行ニ關スルノ報告ト同一ノ地位ニ立ツト謂フベシ故ニ若シ充分公平ニ之ヲ報告スルキハ假令ヒ一個人ヲ誹毀スル事柄ヲ含蓄スルモ其報告中ニ記載シタル件ニ就テハ責任アルコトナシ
ワソノヨリオルターニ對スル著名ノ詞訟ニ於テ大判官某

曰ク裁判廳ノ經行ノ報告ト國會ノ經行ノ報告ト相類似スルヲ以テ各個人ニ對シテ不正ヲ爲スコトヲ防遏センガ爲メニ一方ニ於テ限定シタル制限ハ必ズヤ他方ニ之ヲ適用スルヲ得ベク裁判廳ノ有罪ナリトスル裁判廳ノ經行ニ關スル報告ハ亦同一ニ國會ノ經行ニ關スル報告ニ適用ス可キナリト

上下兩院ノ議員ハ其院ニ在テハ一個人ノ名譽ニ影響ヲ及ボスベキ演說ヲモ之ヲ爲シ得ベシト雖モ己レ自身若クハ他人ノ手ニ依テ其演說ヲ世ニ公布スルキハ譏謗ナリト思考セラレザルヲ得ズ但シ善意ヲ以テ其論旨ヲ報告スルハ此限ニアラズロドケンヨノ曰ク國會ノ議員ハ其國會ニ於テ爲シタル演說ヲ公布スルノ權利アリ然レモ此ノ如ク

スルノ故ヲ以テ某一個人ニ對スル讒謗ノ手段ト爲ス可カラズ若シ夫レ之ヲ以テ其手段トセバ亦是レ讒謗ノ罪ヲ免カレズト

國會ニシテ内閣ヲ助勢シタリト云フハ公平ナル批評ノ問題ナリ然リト雖モ若シ國會ノ某議員ハ邪曲ノ契約ニ依テ己レノ發言ヲ賣ルヲ約束シ若クハ報償ヲ得ザリセハ其約束シタル如ク發言セザリシナル可シト確言スルニ至テハ公平ナル批評ノ限界ヲ超過スルヲ亦疑ハ容レザルナリ

一個人ニ對スルノ批評

各個人ハ自勉自強以テ其結果ヲ收拾シ己ガ專ラトセル業務ニ於ケル令名若クハ榮譽ニ依リ之ヲシテ利益アラシム

ルノ手段トスルノ權利ヲ有スト宜ナルカナ故ニ苟モ他人ノ名譽ヲ明白ニ凌辱スルノ公布ハ讒謗ナリト考定セラル、モ之ヲ辭スルニ由ナカルベク而シテ名譽ヲ毀損セラレタル人ハ其事件ニ就テ陪審官ノ意見ヲ問フヲ法律上ニ許可セラル、モノナリ

是ニ於テ乎商業上ニモアソ宗教上ニモアレ苟モ天下公衆ノ改良ヲ以テ自ラ任ズル所ノ會社ハ其出版ヲ爲スニ方テヤ一個人ノ名譽ヲ毀損スルニ於テ宜ク之ヲ注意セザル可カラズ

吾人ハマツクレゴルヨリグレゴリーニ對スル誹謗ニ於テ被告グレゴリーハ讒謗ノ罪ヲ免レザルヲ見タリ何トナレバグレゴリーハマツクレゴルヲ指シテ彼レハ黒羊即チ

賭首ナリト書記シタル出版ヲ爲シ而シテ其語タル普通ノ見解ヲ下スルハ其名譽ヲ減却スル言語ナレバナリ又ホー
 ルヨリシルバローツクニ對スル詞訟ニ於テ如何ナル人
 リモ惠與金ノ分配其宜キヲ得ザルヲ以テ一個人ヲ非難
 スルヲ能ハズ及賭財競馬並ニ賭博ヲ非難スルヲ能ハザル
 ナ見タリ而シテ此事タル果シテ適法ノモノナリヤ否ヤハ
 吾人ノ未ダ知ラザル所ナリ
 新聞社主ニ對シ彼レハ異教ノ人ナシテ耶穌教ヲ奉ゼシメ
 ノガ爲メニ之ガ功德ノ廣告ヲ其新聞欄内ニ列記シタルハ
 其目的唯其新聞社ニ義捐金ヲ得テ以テ其懷中ヲ暖メント
 スルニ在テ彼レハ欺騙者ナリト云フヲ書記シ又或人世
 人ナシテ義捐金ヲ出サシメントガ爲ニ詐偽ノ義捐金表ヲ出

版シタリト非難スルヲハ誹謗ノ罪ヲ免レズ

然リト雖モ欺騙者ト云フ語ハ名稱ヲ借スル人ニ用ユベキ
 モノトス

クツクヨリウワルドニ對スル詞訟ニ於テ被告ウワルドハ
 原告クツクハ嘗テ自ラ他ノ誹謗ヲ招ク如キ說話ヲ爲シタ
 リト云フヲ以テ己ノ責ヲ免レントナシタリシト雖モ被
 告ノ新聞紙ニ掲載シタルノ事件ハ固ト公衆ヲシテ原告ヲ
 嘲弄セシメ且凌辱セシメントスルニ出デタリト認定セラ
 レタルヲ以テ被告ノ辨護ハ無効ニ歸シタリ
 夫レ一個人ノ財産ヲ非難スルヲト其人身ヲ非難スルヲト
 ハ其間大ニ逕庭アリ決シテ相混ズベキモノニアラズ此事
 タルニハバンスヨリバルロトニ對スル詞訟ヲ以テ證明スル

ヲ得ベシ且某商人ニ對シ彼ハ自ラ惡品ナリト知テ其惡品
ヲ賣却スルノ習慣アリト記載セバ是レ其商人ノ人身ニ對
スルノ讒謗ニシテ詞訟ヲ免ル、^トヲ得ズ然レモ善意誠實
ヲ以テ彼ノ商人ノ品物ハ惡品ナリト非難スルハ則チ是レ
財産ニ對スル非難ニシテ詞訟ヲ免ル、^トヲ得ベキナリ

書籍及出版物ニ對スルノ批評

抑書籍、小冊子、檄文、貼紙若クハ引札ノ如キ文學的ニ關スル
種類ハ批評ノ問題ナリパリヨリ^ゾニ對スル詞訟ニ
於テ判官ハイルス言ヘル^トアリ曰ク廣ク世間ニ公布スル
所ノ檄文、貼紙若クハ引札ト書籍トノ間ハ差違アル^トナク
同ク皆評論即チ批評ノ問題ニシテ且其公布ノ模様モ異ナ
ル^トナシト

一著述家ノ著書ニ對シ公平ナル批評ヲ下シ又ハ著述家自
ラ己レノ著書ヲ批評スル^ルハ詞訟ヲ起ス^トヲ得ザルナリ
然リト雖モ著書ノ批評ニ託シテ著述家ヲ誹毀スル^ルハ詞
訟ヲ起ス^トヲ得ベシ且又著述家タルモノ自ラ世人ノ嘲笑
ヲ蒙ル如キ^トヲ記述スルニ於テハ彼レ著述家ハ世人ノ嘲
笑ヲ招クナルベク若シ著述家ノ著書ニシテ惡意ヲ證明ス
ル^トアラバ批評者ハ其惡意ヲ指摘シ以テ之ヲ責難スル^ト
ヲ得ベシ然リト雖モ批評者ハ己ガ爲メニスル所アリテ故
意ニ著述家ノ信用ヲ害スルノ權利ハ之ヲ有セズ故ニ唯著
述家其人ノ名譽ヲ攻撃スルノ目的ニ出デ正路ヲ離レタル
所ノ批評ハ概シテ之ヲ讒謗ナリトス
ヂヨン、カールヨリフ^ドニ對スル著名ナル詞訟ニ於テロ

ルドエレン、ボローノ判決ハ充分ニ文學的批評ニ關スル法律ヲ確定シタルモノト謂フベシ
 其判決ニ曰ク被告フードノ出版シタル書物ニシテ原告キヨン、カールノ出版シタル書物ヲ非難シ且愚弄シタリトスルモ被告ハ原告ヲ一著述家トシテ愚弄シタルニ過ギザルモノナレバ詞訟ヲ起スノ權利アルヲナシ假令ヒ原告ハ愚弄セラレタルガ爲メニ其名譽若クハ金錢上ノ利益ヲ毀損セラレタリトスルモ法律上救正ヲ與フルノ損害ニアラズ何トナレバ原告ノ著書方今其捌方甚ダ惡シ然ルモ原告ハ尙ホ其著書所論ノ根據ナキヲ論破シテ公衆ノ迷夢ヲ警醒シタル人ニ對シ損害ノ賠償ヲ求ムルヲ得ルヤ吾人ハ苟モ著述家諸士及其著書ニ注目シ之ヲ是非スル所ノ者ア

ラハ之ヲ壓抑セザルコトニ注意セザル可カラザルナリ著書ハ公衆ノ批評ヲ蒙リ易キモノナルノミナラズ又其立論ノ結構ニシテ若シ笑止ノモノヲレバ嘲弄ヲ蒙リ易キモノナリ然ラザレバ或問題ニテ一書ヲ著述シタル最初ノ著述家ハ其問題ニ關スル所ノ論說ノ專賣權ヲ得ルナルベシ而シテ此事タル永遠ニ誤謬ノ說ヲ傳フルノ傾向アルモノナリト謂ツベシ抑著書ヲ嘲笑スルハ一事ナリ一身上ノ名譽ヲ害スルハ他事ナリ若シ原告ニシテ其道德上ノ名譽若クハ著述家タルコトニ關係ナキ所ノ名譽ニ攻撃ヲ蒙リタルヲ余ニ向テ證明セバ余モ亦某判官ノ嘗テ此裁判廳ニ於テ原告ヲ保護シタル如クナスナルベシ然リト雖モ余ハ被告が原告ノ著書ヲシテ公衆ノ嘲笑スル所ノモノタラシメタリ

ト云フノ故ヲ以テ直チニ惡意アリト爲スヲ得ズ之ヲ例セ
 バ若シ一ノ批評者ニ著書ヲ評論シタルノミニ止リ其他
 ノ事ニ論及セズ又其著述家ヲ刑罰ニ陥ル、ノ目的アラザ
 リセバ彼レ批評者ハ適法ノ權利ヲ行ヒタルモノト謂フベ
 シ此詞訟ニ於ケル豈之ニ異ナルコトアランヤ何トナレハ
 若シ被告批評者ニシテ原告ヲ誹毀スルノ目的ヲ以テ原告
 ノ私事ニ就テ批評セバ是レ即チ讒謗ナルベシ然リト雖モ
 其私事ニ就テ批評シタル如キ章句アルコトヲ加之戲畫(原
 告ギョウ)氏ヲ嘲弄ノ爲メ卷首ニ畫キタルモノト雖モ被告
 ノ爲メニ嘲笑セラレタル著書ノ著述家トシテ原告ヲ指示シ
 タルニ過ギズ且此ノ如キ無用ノ書物ハ之ヲ天下ニ著名ナ
 ラザラシメンガ爲メニ之ヲ毀貶スル所ノ批評者ハ公衆ニ

取テ最モ有用ナルモノナリ何トナレバ此ノ如キ批評者ハ
 惡說ノ公布ヲ止メ人民ヲシテ陳腐ノ書ノ爲メニ時ト金ト
 ナ消耗セシムルコトヲ阻遏スルモノナレバナリ批評ノ自由
 ハ許容セラレザルベカラズ然ラザレバ吾人ハ眞ノ辨別及
 道德ヲ保持スルコト能ハザルベシ公平ナル講究ハ歴史其
 事實ヲ得學術其進歩ヲ爲スニ必須欠ク可カラザルモノト
 リ故ニ余ハ此ノ如ク某一個人ノ名譽ヲ害スルコトヲ其目
 的トナサズ虛妄ノ言ヲ矯メ無稽ノ說ヲ正シ及道德ニ背
 スル所ノ論說ヲ非難スルコトヲ以テ正鵠トスル所ノ公布ハ
 決シテ讒謗ナリト思考セザルナリ余ハ公平廉直ナル批評
 ト稱ス此批評タル假令ヒ著述家ニシテ之レガ爲メニ損害
 ナ蒙ルコトアルモ批評者ハ之ヲ公布スルノ權利アルモノト

大何トナレバ此ノ如キ損害タル法律ノ損害ト認メザル所
 ノモノナリ而シテ其損害ト認メザル所以ノモノハ其損害
 タル詞訟關係人ハ固ヨリ之ヲ蒙ラザル可カラザルモノナ
 レバナリ簡畧ニ之ヲ言ヘバ其損害ハ即チ法律上許可セラ
 レザル名譽及利益ノ損害タレバナリト
 此至善至美ナル判決ハストラスヨリフランシスニ對スル
 詞訟ニ於テ大判官コツクボルンノ判決ニ依リ全ク確固不
 拔ノモノトナレリ碩學ナル大判官コツクボルン曰ク文學
 ニ依テ公衆ノ感覺ヲ善良ニシ道德ヲ進メ宗教ヲ純粹ニセ
 ントスルニハ天下公衆ヲ説服センガ爲メニ出版シタル諸
 書ノ目的ヲシテ公衆ノ心思ヲ改良スルニ在ラシメ敗壞ス
 ルニアラザラシムルヲ最モ緊要ノ事ナリトス故チ以テ批

評ニシテ論理ニ適ヒ且公平正義ノ道ニ合スル以上ハ可成
 的廣ク之ヲ許容セザル可カラズ且非難ノ問題タルベキ著
 書ヲ寬假セズ大ニ之ヲ非難スルヲハ之ヲ讒謗トスベカラ
 ザルヲ緊要タリ抑一著書ヲ出版スル所ノ人ハ固ヨリ自ラ
 批評ヲ挑撥スルモノナリ而シテ其人己ニ己レヲ稱揚シ若
 クハ其著書ノ賣高ヲ増スベキ批評ハ之ヲ悅ブトセバ又苟
 モ己レニ對シ惡意ヲ表スル如キ破廉恥心ヨリ起リタル批
 評ニ非ザル以上己ガ持説ニ反シタル所ノ批評ト雖モ亦之
 チ甘受セザル可カラザルナリト
 事實ヲ誤記スルガ爲メ往々批評ノ嫌忌ニ陷ルヲアリ然レ
 其其事若シ普通ノ注意若クハ戒心ノ欠亡ヨリ起リタルト
 キハ陪審官ニ依テ之ヲ讒謗若クハ否レズト決斷セラルベ

シ
 一新聞紙ニ對シテ彼ノ新聞紙ハ不流行ノモノナリト記載
 セバ公平ナル批評ノ區域ヲ超過シタリト謂フベシ何トナ
 レバ此ノ如キ記載ハ實ニ其新聞紙ノ廣告ヲ減少シ以テ其
 安全ヲ害スルモノナレバナリ然リト雖モ此ノ如キ批評ヲ
 除クノ外ハ何ノ新聞紙ト雖モ他ノ文學的書物ト同様ニ其
 論說ニ反對シタル批評ノ問題タルハ言ヲ待タザルナリ
 以上列述シタル發賣ノ著書ニ對スル批評ノ規則ハ朋友中
 ニ頒布スル訓言、小冊子ノ如キ發賣セザル著書ニモ亦適用
 スベキナリ

滑稽演戲ニ對スルノ批評

滑稽演戲ノ俳優ノ行爲或ハ其優劣ヲ公平ニ批評スルノ權

利ハ其觀客ガ己レノ切符ヲ以テ購求シタルノ特權ト謂フ
 ベク之ヲ管理スル所ノ人ト觀客トノ間ニ成立チタル相互
 ノ契約ナリトモ稱スベシ且此事タル有用ナル特權ナリト
 ス然リ而シテ此種類ノ諸不完全ナル權利ニ就テハ法律上
 ノ議論區々ナルニモ拘ハラズ滑稽演戲ヲ批評スルコトハ若
 シ其適當ナル目的ニ止マルキハ公安ヲ危險ナラシムルノ
 虞ナシト雖モ若シ其批評ニシテ公平ナル目的ヲ超過シ惡
 意ヲ挾ミ若クハ喧噪ヲ惹起スルニ至ルコトアラバ唯ニ一個
 人ノ害ノミナラズ併セテ社會ノ秩序ヲ紊亂スルコト疑フベ
 クモアラザルナリ
 ナグギンヨリボストツクニ對スル詞訟ノ一例アリ其詞訟
 タルヤ被告ガ某新聞紙ニ原告ガ一滑稽演戲ニ於テ演シタ

ル歌ハ原ト他人ノ作ナリシモ原告自ラ作リタル如ク之ヲ
 宣言セシハ甚ダ鄙劣ノ行爲ニシテ且其歌ヲ演スルニ就テ
 雇ハレタル人ノ外ハ之ヲ稱揚セザリシト記載シタルニ由
 テ起レリ而シテロルドケンヨン之ニ就テ其所見ヲ吐露シ
 テ曰ク一新聞記者ハ公平廉直ニ滑稽演戲ニ就テ評ヲ下ス
 ヲ得然リト雖モ其評ヲ下スニ方テハ惡意ナク且公衆ヲ
 シテ座主ヲ害セシメ若クハ最良セシムルノ目的ナク公平
 ナ以テセザル可カラズ而シテ此ノ如ク公平ヲ以テスルニ
 於テハ如何ナル嚴酷ノ非難ト雖モ其評ノ正義ナルガ故ニ
 批評者ハ法律上ノ責任ヲ免ル、ヲ得ベキモ若シ其評ニ
 シテ不正、惡意若クハ公平ナル意見ノ區域ヲ超過スルノ證
 據アルキハ是レ則チ讒謗ニシテ詞訟ヲ免ル、ヲ能ハザル

モノトスト

批評ノ方法

此篇ノ局ヲ結ブニ方テ批評ノ方法及其限界ニ就テ一言ス
 ルヲ以テ最モ適當ナリト思考ス抑唯公然ト直接ニ言ヒ顯
 シタル筆書ノ誹毀ヲ以テ讒謗ト爲スノミナラズ又反語、暗
 語及間接不明ノ方法ヲ用ヒテ作爲シタル誹毀ト雖モ亦同
 ク讒謗ナリトスルヲ得ベシホルカード曰ク法律ハ諷刺ノ
 秘密ナル故ヲ以テ決シテ欺カレザルナリト故ニ法律ハ吾
 人ニ告テ曰ク譬喩ノ讒書ハ公然ノ罵詈ト共ニ同一ノ罰ニ
 處ス可キナリト且其讒書ニシテ眞ニ不分明ニシテ各人譴
 語トシテ看過スルヲアルモ尙ホ之ヲ注視スル人ニシテ其
 中ニ諷刺アリト思考スルヲ得ベキ如キ假面アルキハ裁判

廳ハ陪審官ノ助勢ニ依テ精密ニ之ヲ審問シ而シテ讒語ヲ
 作為シタル人ノ故意ニ出デタルヤ否ヤ及讒語ノ爲メニ害
 セラレタル人ノ名譽ニ及ボス可キ其影響ニ從テ裁判ス可
 キナリ夫レ傍聽者ノ了解シ得ザル言語ヲ以テ他人ヲ凌辱
 スルノ談話ヲ爲スト雖モ詞訟ヲ起ストナリ得ズ何トナレハ
 此ノ如キ談話タル害ヲ爲サザルヲ以テナリ然レモ若シ其
 談話ニシテ傍聽者ノ了解スル所トナリタルニ於テハ詞訟
 ナ起ストナリ得ベシ而シテ讒書ノ場合ニ於ケルモ亦此ノ如
 キナリ若シ世間ニテ讒書ナリト之ヲ了解セバ法律モ同一
 ノ意見ヲ取ル可シ然レモ若シ諷刺ニシテ世間一般了解セ
 ザルモハ法律モ亦之ヲ罰セザルベシ其レ然リ一ノ詞訟ニ
 於テ大判官ライモンド勵聲シテ曰ク世間一般ニテ其字句

ノ意義ハ容易ク之ヲ了解スルヲ得ベシトスルニ當テ裁
 判廳ノミ唯其意義ヲ了解ス可カラズトスルハ實ニ苦シキ
 ナリト

又譬喩ノ言詞ヲ用ヒテ高名ナル人ト比較シテ問答ニ依テ
 暗示スト雖モ其人ハ讒者タルヲ免レザルナリ判官コー
 ルリツギ曰ク若シ元來譬喩ノ言詞ナリシモ其譬喩ニ用ヒ
 ラレタル時其用變ジテ一般ニ用ユルノ言詞トナリ而シテ
 殆ド文學的意義ヲ有シタルモハ吾人ハ其言詞ノ用ヒラレ
 タル如ク並ニ衆人ノ耳ニ熟シタルノ意義ニ從テ其言詞ヲ
 了解セザル可カラザルナリト
 茲ニ一言シテ以テ讀者ノ注意ヲ喚起ス可キヲアリ即チ戲
 畫師ノ筆ハ屢々嘲弄ノ甚ダ有力ナル器械トナルヲ及原告

ニ損害トナル事柄ヲ公衆ニ傳送スル此方法ト公然吐露スル誹毀トノ間差違アルヲ報告中ニ見ザルト是レナリ

讒謗法論第一篇終

讒謗法論

第二篇 特許ノ通信

此篇ハ第四篇讒謗詞訟ノ辨護ト題スル篇ニ至テ論陳スルコソ順序甚メ其當ヲ得タルモノト謂フベケレ何トナレバ此篇タル辨護ヲ爲スニ當リ最モ緊要ノ資トナルベキモノナレバナリ然リト雖モ吾人ハ茲ニ此篇ヲ論ズルノ已ム可カラザルヲ知ルナリ吾人常ニ以爲ラク此書ハ小冊子ニシテ其目的タル唯新聞記者及著述家ヲシテ適當ナル批評ノ限界ヲ越ヘザラシメ而シテ若シ其限界ヲ越ユルニ於テハ其位地如何ナルヤヲ證明シ且被讒者ニハ或人他人ノ行爲ヲ批評スル法律ノ許セル所ノ區域ヲ指示スルニアリト凡ソ人己ガ職業上ニ關シテ他人ノ害トナルベキ通信ヲ要

スルコトアリ又社會ノ必要時ニ或ハ此ノ如キ通信ヲ爲スノ
 已ムヲ得ザルコトアリ而シテ此ノ如キ通信ト雖モ若シ眞實
 善意ニ社會的若クハ道德的義務ヲ行ハシガ爲メ乎又ハ其
 事務ヲ舉行セシガ爲メ乎公平正理ニ自己若クハ他人ノ利
 益ヲ保護センガ爲メナレバ敢テ法律ノ問フ所ニアラズ此
 通信ヲ稱シテ特許ノ通信ト曰フ然リト雖モ其通信ニシテ
 妄誕若クハ惡意ヲ以テセラル、時ハ實利主義ノ保護スル
 所ニアラズ
 特許ノ通信トハ其通信ニ對シ原告ガ唯其記載ノ爲メニ己
 ガ名譽ヲ害セラレタリトテ被告即チ通信者ヲ詰責スルキ
 ハ被告ハ其通信ヲ爲セシ時機ヲ説明シ以テ之ニ抗辨答解
 シ且原告チシテ實ニ被告ハ通信ヲ爲シタル時機ニハ關係

ナク唯私怨若クハ惡意ヲ挾ミ以テ此記載ヲ爲スニ至リシ
 ナリト證明スルノ責任ヲ負ハシムルノ通信ヲ曰フ
 世人ガ特許ノ通信ナリト認識スル場合ノ解明ハ各種譏謗
 ノ公布ハ惡意ヲ含蓄スト云フ規則外ト爲サバル可カラズ
 特許ノ通信ハ誠意ヨリシテ告知セザル可カラザルニ至ル
 所ノ法律上、道德上及交際上ニ於テ認識セラレタル義務若
 シハ意志ヨリ起ルモノト云フベシ
 特許ハ文明社會ノ狀況ニ副フタル法律上若クハ道德上ノ
 義務ヲ履行セントスルノ目的ヲ以テ正實ニ通信ヲ爲シタ
 ル凡百ノ場合ニ及ボスモノトス又特許ノ通信トハ他人ニ
 依頼シテ爲シタル通信、訓戒、助言ノ方法ヲ以テ爲シタル通
 信、眞實善意ニ他人若クハ自己ノ利益ヲ進捗セシムル爲メ

ニ爲シタル通信ノ總稱ナリ故ニ時機此類ノ通信ヲ爲スヲ要スルニ於テ正當ノ目的ヲ以テ之ヲ爲スハ法律ノ許ス所ニシテ其通信者ハ民刑兩事ノ問フ所ニアラズ之ニ反シテ惡意ノ外套トシテ時機ヲ用ユルハ法律ノ保護ヲ與フルノ限ニアラザルナリ

特許ノ通信ニ關スル所ノ法律タル往昔ニ在リテハ其區域甚ダ狹隘ナリキ然ルニ近時ニ至テハ他人ノ直接ニ利害ヲ有スル某人ノ名譽ニ關シ細密ナル報告ヲ得ルハ社會一般ノ安寧ニ對シテ最モ必要ナリトノ主義ヨリシテ漸次其區域ヲ擴張スルニ至レリ

通信ノ特許ヲ有スルハ新聞記者及著述家ト雖モ亦常人ニ勝ラズ蓋シ各人ハ己レノ身軀、財産若クハ名譽ニ損害ヲ

蒙ラントスルヲ保護セシガ爲メニ必要ナリト信ズル所ノ正當ナル原由アルニ於テハ凡百ノ事ヲ公布スルノ權利ヲ有セリ而シテ新聞紙ノ出版人ハ社會一般ノ安寧ヲ攪亂スベキ危險アル時ハ之ヲ公衆ニ報知スルニ最モ有力ナル手段ヲ有スルモノナレバ其直接ト間接トヲ問ハズ此ノ如キ害惡ヲ聞知スルニ於テハ各人が其隣人ニ其聞知スル所ヲ報知スルノ交際的義務アルガ如ク亦之ヲ公衆ニ報知スルノ義務ヲ負フモノナリ然リト雖モ若シ通信上ノ言語ニシテ不必要ノ讒謗、暴言若クハ過分ノ言アルハ其通信タル特許ノ保護ヲ失シ其通信ハ惡意ヲ以テ爲シタリト假定セラル、モノトス

特許ノ通信ヲ分チテ左ノ四類トス

(第一)法律上若クハ道德上ノ公私ノ義務ヲ履行セシガ爲メ或ハ自己若クハ他人ノ權利々益ヲ保護センガ爲メニ誠實ヲ以テ通信スルモノ

(第二)舊雇人ノ名譽ニ關シ其主人ノ談話シ若クハ書記シタルモノ

(第三)裁判廳ノ經行ヲ公布スルコト

(第四)國會ノ經行ヲ適當ニ公布スルコト

且常ニ特許ノ公布ヲ分チテ單獨公布及制限公布ノ二者トス

第一、單獨公布トハ何ゾヤ公布者ニ責任ヲ負ハセザルモノ是レナリ即チ時機、公布ヲ爲スヲ法律上許サル、ヲ以テ誹毀譏謗ノ爲メ民事ノ詞訟ヲ起スト雖モ之ニ法律上ノ救正

ヲ爲サザルモノヲ云フ今單獨公布ヲ細別シテ左ノ三項ト爲スヲ得

(第一)裁判廳ノ經行ノ公布

(第二)國會ノ經行ノ公布

(第三)實事ノ公布

公平精密ニ善意ヲ以テ裁判廳ノ經行ヲ報告スルコトハ其報告ニシテ裁判廳ノ禁止スル所ニ係リ若クハ審問ノ性質ニシテ公布ス可カラザルモノニアラザルヨリハ特許ノ公布ナリトス然リト雖モ報告者ハ證據ヲ記述スルコトナクシテ審問ニ關シ各個人ノ名譽ニ影響ヲ及ボスベキ代言人ノ論述ヲ公布スルノ特許アルコトナシ國會ノ經行ニ關シ之ヲ報告シ若クハ批評シ得ルノ區域ハ

已ニ第一篇ニ於テ之ヲ詳論シタリ而シテ國會ノ經行ニ關
 スル批評ノ第一項ニ於テハ國會議員タル者ハ其議員タル
 ノ資格ヲ以テ爲ス所ノ行爲ニ就テ公衆ノ爲メニ批評セテ
 ル、ノ區域ヲ論シタルヲ見ルベシ然リト雖モダンコンブ
 ヨリダニエルニ對スル詞訟ニ於テ世人皆之ガ説ヲ爲シテ
 曰ク選舉人タル者ガ苟モ國會ニ於テ一城市ノ代議士タラ
 ント欲スル候補者ノ名譽ニ關スル事ヲ新聞紙上ニ掲載ス
 ルコトハ特許ノ通信ニアラズト且審問ノ時ニ方リ大判官ロ
 ルドデマン曰ク選舉人ノ特權ハ如何ニ廣大ナルニモセ
 ヲ苟モ候補者ノ位地ニ立チタル人ノ名譽ヲ害スベキ實事
 ナ世間ニ公布スルコトハ決シテ法律ノ許ス所ニアラズト
 吾人ハ前篇ワソソヨリオルターニ對スル詞訟ニ於テ裁判

應ノ報告ト國會ノ報告トノ間ニ密着セル類似ノアルコトヲ
 證明シタリ而シテ上院ニ於テ爲シタル演説并ニ其演説ノ
 最要ナル箇條ヲ評論シ其新聞紙ニ掲載シタル報告中ニ讒
 謗アリトシテタイムス新聞紙ノ社主ニ對シテ起シタル
 詞訟ニ於テ博學ナル某判官其説ヲ主張シテ曰ク國會ノ上
 下兩院ニ於ケル討論ヲ公平誠實ニ報告スルコトハ特許ノ公
 布ニシテ讒謗ナリトシテ詞訟ヲ起スノ問題ト爲スコトヲ得
 ズト且演説ノ論旨中ノ最要ナル箇條ヲ評論シタルコトニ就
 テ同判官又曰ク此ノ如キ事タルヤ公益ノ關スル所ニシテ
 新聞記者タルモノハ充分此旨趣ヲ論議スルノ權利ヲ有セ
 リ然レモ苟モ之ヲ論議スルニ於テハ公平正直ノ精神ヲ有
 シ且人ト人トノ間ニハ權利正義ヲ存セシムルノ希望ヲ持

セザル可カラズ裁判廳ノ經行ノ報告ニ適用セラレタル實
 利主義ハ同一ノ効力ヲ以テ國會ノ經行ノ報告ニ適用スル
 モノナリト
 吾人ハ今一步ヲ進メテ一〇目瞭然ニ正當ノ辨解アル時機ニ
 於テノミスルヲ以テ、惡意ヨリ起リタリト假定スルヲ得
 ザル制限アル特許ノ公布ニ就テ論述スル所アラントス
 制限アル特許ノ公布ハ其事ヲ以テ眞實ナリト信用シ善意
 ナ以テ之ヲ公布セザル可カラズ若シ通信ヲ爲スニ正當ノ
 原因ナキハ法律ハ其通信ヲ以テ惡意ヨリ出デタルモノ
 ト認定スベシ之ニ反シテ若シ正當ノ原因アリシトノ顯然
 タルニ於テハ現ニ如何ナル惡意ヨリ出デタルニモセヨ其
 通信ハ特許ノモノナリトス

出版ニ關シテ各特許公布ノ緊要ナル箇條ハ公布ノ事件タ
 ル公衆ノ利害ニ係ルモノニシテ且公衆ニ通知セントスル
 ノ單純ナル企望ニ出ヅルヲ要ス
 詞訟ノ原因其數甚ダ多シト雖モ其一ハ公會ノ經行ヲ報告
 スルヨリ起ルモノ是レナリ而シテ該經行タル那邊ヨリ公
 益ノ關スル所ナルヤヲ精密ニ確定スルトハ或ハ困難ナキ
 ニシモアラズ然リト雖モ公會ニ於ケル經行ノ報告ハ假令
 ヒ公平正直ニ之ヲ爲スモ裁判廳及國會ニ於ケル經行ノ報
 告ト同一ノ特許ヲ享受セザルヲ明白ナリ而シテ此ノ如ク
 區別スルノ道理ヲロルドカムベル左ノ如クニ論述セリ曰
 ク裁判廳ニ於テ起リタル事件ヲ公平ニ報告スルハ之ヲ衆
 人ニ知ラシムルト之ヲ衆人ニ知ラシメザルト權衡ニ照シ

テ之ヲ衆人ニ知ラシムルヲ以テ公益大ナリトスルガ故ニ
 特許ノ者ナリトス且公衆ニシテ裁判廳ニ於テ起ル事件並ニ
 裁判廳ニ於ケル判官ノ處置ヲ知ルハ最大緊要ノ事ナリト
 ス故ニ私ノ名譽ヲ害スルノ機會ヨリ生ズル不便利ハ衆人
 ナシテ之ヲ知ラシムルノ便利ニ比較シテ至極些少ナルモ
 ノナリ然リト雖モ裁判廳ノ經行ヲ報告スルノ特許ハ諸公
 會ニ起ル報告ニ及ボス可カラザルト是レ爭フ可カラザル
 モノナリ且假令ヒ其報告タル單ニ公會ノ目的ヲ助勢スル
 ニ止ルモノナルモ若シ之ニ特許ヲ及セバ則チ是レ人ナシ
 テ恐怖ノ念慮ヲ抱カシムルノ域ニ特許ヲ及ボシタルモノ
 ト謂フベシ抑公會ニ於テハ問々讒者ノ問題トナルベキ諸
 件ヲ議スルコトアリ而シテ其公布ニシテ讒謗スルコトアレバ

被讒者ハ不幸ナル位地ニ立ツト謂ハザルヲ得ズ然ルモ尙
 ホ裁判廳ニ於ケル報告ノ如ク被讒者ハ詞訟ヲ起シ若クハ
 讒者ヲシテ其實ヲ證明セシムルコト能ハズト
 ヒールンヨリホーウエルニ對スル詞訟ニ於テ國會ニ歎願
 センガ爲メニ集會セタル公會ノ經行ノ報告中ニ讒謗ノ事
 件ヲ掲載シテ公布スルコトハ特許ノ公布ニ非ズト云フコト
 確定シタリ又ポーフハムヨリピツクボルンニ對スル詞訟
 ニ於テ寺院集會ノ經行ヲ報告スルハ特許ノ公布ノ限ニ非
 ズト確定セリ
 公館ニ關シテハ出版人多少困難ノ地位ニ立テリ抑法律上
 新聞紙ノ其動作ニ對シテ批難スルコトヲ許可セラル、如キ
 公然ノ關係アル公館トハ何ゾヤコツクスヨリフキーニ

對スル詞訟ニ於テ大判官コックボルン曰ク大學校、病院ノ如キ公館ノ動作ハ自由ニ出版ニ依テ之ヲ論議スルヲ得ル所ノ公益ノ事件ナリト然リト雖モ公館ノ代理者ノ名譽ニ關スル詞訟ノ要領及其密問ニ關スル大判官ノ調書中ノ要用ナル章句ヲ記載スルハ必要ノコトナリト信ズルヲ以テ左ニ之ヲ記述セントス

賑恤委員ハボルミングハム大學醫學校ノ動作ヲ検査セシメシメガ爲メニ其校ヘ検査官ヲ派遣セリ而シテ該検査官ハ其検査シタル實況ヲ公然ノ報告ニ作り之ヲ賑恤委員ニ提出セリ其報告中ニハ該大學校博士ナル原告ノ專恣、暴戾若クハ傲慢ナル舉動アルコト及其大學校ニ於テ奉ズル所ノ諸ノ職務ニ堪ヘザルコトヲ愁訴シテボルミングハムノ教長ニ

呈シタル書翰等ヲ掲載シタリ然ルニ該大學校タル其後モ尙ホ荏苒トシテ前記ノ如キ景況ナリシカバ該報告ヲ作りタルヨリ殆ド三年ヲ經過シタル後被告ハ己レガ所有スル新聞紙ニ其報告ノ全文ヲ掲載セリ而シテ原告ハ其報告中ニ於ケル被告ノ教長ニ呈シタル書翰中ニ讒謗ノ章句アルヲ以テ之レガ詞訟ヲ起セリ此時被告ノ陳辨スル所ニ據レバ被告ハ該大學校ノ爲メニハ屢々其所見ヲ此新聞紙ニ掲載シテ輿論ヲ喚起シタルコトアリ且該大學校ノ景況タル不満足ナルコトハ世人モ己ニ知ル所ナルヲ以テ此報告ヲ新聞紙ニ掲載スルニ至リシナリ抑該大學校ノ情況ニ就キ確實ナル判斷ヲ下スノ基礎ニ必要ナル材料ヲ公衆ニ與ヘ且以テ議會ノ盡力ヲ補助スルハ吾人新聞記者タルモノ、義務

ナリト感覺ス若シ夫レ吾人ニシテ充分公平ニ報告ヲ出版
 スルヲ除カバ此義務タル如何シテカ之ヲ盡スベキ故ニ
 吾人ハ官ヨリ其原稿ヲ得而シテ之ヲ出版シタルナリト
 原告ノ爲メニ之ガ説ヲ爲ス者アリ曰ク該報告ヲ作リシ以
 來今年ニ至ルマデ殆ド三年間ハ該報告ヲ公衆ノ忘却シタ
 ルモノニシテ陳腐ニ屬シタリシナリ然ルニ該報告ヲ新聞
 紙ニ掲載シテ公衆ニ公布シタルハ恣ニ一回死灰ニ屬セシ
 報告ヲシテ蘇生再燃セシメシナリト然レモ博學ナル大判
 官ハ左ノ二疑問ニ就テ陪審官ニ其意見ヲ陳述スルヲ求
 メタリ

(第一)公衆ハ此事件ヲ知ルヲ以テ其利益トナスヤ否

(第二)被告ハ原告ヲ害セントスルノ惡意ナク單ニ公衆ヲ

シテ之ヲ知ラシメンガ爲メノ誠意ニ出テ以テ該報告ヲ
 新聞紙ニ掲載シ公衆ニ公布シタリシヤ否

且曰ク若シ陪審官ニシテ確然此二個ノ疑問ニ答フル
 アラバ被告ノ爲メニ判斷ヲ發見スベシト

第一ノ疑問ニ就キ大判官曰ク此等疑問ノ起リタル大學校
 ハ公共ニ於テ利害ノ關スルモノタルハ毫モ疑フ可カラ
 ザル所ナリ而シテ該大學校タル當初有志者ノ義捐金ヲ以
 テ設立セラレタルモノナルニモセヨ公共ノ爲メニ設立セ
 ラレタルモノタルハ論ヲ俟タズ且該病院タル之ヲ必
 要トスルノ地位ニ立ツ所ノボルミングハムノ貧民ヲ救助
 スルヲ以テ其目的トシ該大學校タル兩親ノ其子ニ於ケル
 後見人ノ其被後見人ニ於ケル皆後來ノ希望ヲ以テ入學セ

シメタル者ヲ教育スル以上ハ此二者タル孰レモボルミン
 グラム及該地方人民ノ利害相關セザルヲ得ザルモノナリ
 トス故ヲ以テ其治法、處置、教育及財政等ニ關スル事件ニ就
 テハボルミンングラム及該地方人民ハ共ニ利害ヲ有スルコ
 ト明カナリトス夫レ然ラハ則チ其教育、教授ノ方法及
 該校設立ノ目的ヲ實行セントスル方法ニ就テ世人ハ如何
 ナル評ヲ爲スヤヲ知ルハボルミンングラム人民ノ大利ナリ
 而シテ該大學校ハ善ク管制セラレタルヤ將タ惡ク管制セ
 ラレタルヤ若クハ此校タル賢明ニ取扱ハレタルヤ將タ管
 理其宜キヲ得ザルガ爲メニ頽敗ノ姿トナリ寧ロ不用ノモ
 ノタルヲ得ザルヤ卿等ハ此等ノ疑問ニ就テ判斷ヲ下スニ
 當ラハ卿等ノ目前ニ夥多ノ材料ヲ有スルナリ何トナレバ

該校ノ實況ヲ檢査シ且其報告ヲ作ラシメンガ爲メニ派遣
 セラレタル委員ノ報告ニ據リ卿等ハ該校ノ財政事務ハ錯
 亂シ而シテ其有司ハ其職務ニ不注意ナル等ノ事ヲ發見シ
 得ベケレバナリ加之該報告タル原告モ精密ニシテ確實ナ
 リト許ス所ノモノナレバ余ヤ斷シテ曰ハントス是レ公衆
 ニ有益ナル通知ヲ爲シタルナリト又報告ノ作ラレタル當
 時ニ在テ委員ノ報告ヲ公衆ニ公布スルハ新聞記者タルモ
 ノ、一職務ニ義務ニシテ何人タリトモ之ヲ以テ該記者ガ
 其職務及義務ノ區域ヲ超過シタルモノナリト謂フヲ得
 ズト果シテ然ル邪則チ此都府ノ二大建造物タル該病院及
 大學校ノ爲メ深ク利益ヲ受クルボルミンングラムノ人民ニ
 報知スルヲ以テ目的トシテ公布シタルハ新聞記者ノ義

務ナルベシト

次ニ又星霜ヲ經過シタリト云フヲ根基トシテ主張セラレタル辨論ニ就テ大判官ハ陪審官ニ向テ曰ク凡百ノ事務ヲシテ錯亂セシメタル原因タルガ如キ管理法ノ其宜キヲ得ザル事ハ唯其時ニノミ止ラズ加之若シ吾人ニシテ此大學校ニ於ケル保護人、博士及教官等ガ悉ク刑法院ニ引致セラレ、トテ看破スルコトアラフニハ卿等ハボルミンクハムノ人民ハ此大學醫學校ノ現況ノ由テ來リタル此管理法全體ノ沿革ヲ其目前ニ有セザル可カラザルモノナリト思惟スルヤ將タ然ラザルモ可ナリト考察セラル、ヤ此事タル卿等ノ注意ヲ乞フノ一事ナリ若シ卿等ニシテ何故ニ新聞記者ハ誠實ニ其義務ヲ盡サンガ爲メニ此報告ヲ公衆ニ公布

スルヲ其本分ナリト思惟スルナルヤト云ヘル點ニ就キ充分ナル道理ヲ看破スルキハ勢ヒ其判斷ハ被告ノ爲メニセザル可カラズ若シ之ニ反シテ卿等ニシテ適當ニ被告ヲシテ此報告ヲ公布セシムルニ至リタル公共ノ義務及公共ノ利益若クハ其緊要ヲ看破スルコト能ハザレバ卿等ハ其判斷ニ依テ其看破シ得ザル理由ヲ述べザル可カラズ且若シ卿等ニシテ被告ハ原告ノ人身ヲ害セントスルノ企望ヲ以テ惡意ヨリシテ此公布ヲ爲スニ至リシナリト思考セバ卿等ノ判斷ハ原告ノ爲メニセザル可カラズ然リト雖モ若シ卿等ニシテ假令ヒ五年以前ニ起リタル事件ニ關スルニモセヨ新聞記者ノ其義務ヲ盡スニ方テハ此報告タル正ニ爲サル可カラズト云フコトヲ看破セバ只ニ其意衷ノ在ル所ヲ

洞察シテ之ガ判断ヲ下サンノミ抑被告ニシテ報告中ヨリ
 教長ニ呈シタル書翰ノミヲ抜萃シテ新聞紙ニ掲載シタリ
 シナラバ余ハ詞訟ヲ起スノ理由アリト思考スルナルベシ
 又被告ニシテ書翰中ノ一章一句ヲ抜萃シテ新聞紙ニ掲載
 シタリシナラハ同ク詞訟ヲ起スノ理由アリト思考スルナ
 ルベシ然リト雖モ彼レ被告ハ該建造物ノ憲法及管理法ニ
 於テ固有ノ欠所アリシヲ公衆ニ熟知セシメシガ爲メ公
 衆ノ目前ニ報告ノ全文ヲ提供スルノ意向ヲ告白シ且其言
 ノ如ク其全文ヲ報告シタリシモノナレバ余ハ全ク被告ノ
 報告タル單ニ公衆ノ爲メニセシモノナリト斷言セザルヲ
 得ズト
 一個人ニ對スル批評若クハ非難ニ於ケル特許ノ區域ヲ論

ズルハ第二緊要ノ事ナリトス

第一新聞記者ニ對スル質問ニ就テ新聞記者ガ善意ヲ以テ
 之ヲ辨解スルノ公布ハ特許ノモノナリ何トナレバ此事タ
 ル新聞記者ノ義務ヨリシテ之ヲ爲スカ若クハ質問ヲ爲ス
 人ノ利害ニ關シテ之ヲ爲スモノナレバナリ又人己ノ利
 害ニ關スルカ若クハ之ヲ新聞紙ニ掲載セザレバ己レ免レ
 能ハザル所ノ責任ニ對シテ己レヲ保護センガ爲メ或實事
 ナ発見セントスルノ目的ヲ以テ善意ニ或事ヲ廣告スルノ
 場合モ亦同上ノ規則ニ依テ之ヲ論ズベシ
 パリーヨリレヴ^キニ對スル著名ナル詞訟ニ於テ主張セラ
 レタル說アリ其說ニ曰ク若シ原告ノ業務(海産舖幹事)ニ就
 キ被告ハ時機之ヲ非難セザルヲ得ズ而シテ正當ノ理由ニ

依リ之ヲ非難シタルモノナレバ其非難ハ如何ニ鋭キモノ
 ナリト雖モ特許ノモノナリ然レモ若シ被告ニシテ一語タ
 リトモ原告ノ私ノ名譽若クハ其職務ヲ取扱フ方法ニ關シ
 テ之ヲ非難シタルモノナラバ決シテ特許ノモノニアラズ
 ト
 僧侶慈善會ノ管理ニ對シテ影響ヲ及ボス所ノ公布ハ之ヲ
 特許ニスル如キ公益ニ關スルモノニアラズ
 ハンターヨリシヤイプニ對スル詞訟ハ新聞記者ノ免許ニ
 關シテ教訓トナルベキモノ夥多アリ原告ハンターハ癆症
 特治ノ治療法ヲ有スルヲ廣告シタルガ故ニ被告シヤイ
 プハ過激ナル言語ヲ以テ之ヲ欺騙者若クハ庸醫ナリト評
 シ且原告ハンターガ亞米利加ノ免許狀ヲ得有スルガ爲メ

自ラ稱シテ「醫學士」ト記載シタルハ恰モ「惡質ノ贗造貨幣」ヲ
 發行スル惡徒ノ如シトシテ之ヲ非難セリ然ルニ當時原告
 ノ廣告タル欺騙、妄誕大言ニ出テ頗ル世人ヲ害スルノ恐レ
 アリ且其廣告ハ固ヨリ公共ノ利害ニ關係スルヲ少カラザ
 レバ宜ク公衆ノ批評スベキ適當ノ問題ナリ、又被告ニシテ
 新聞記者ノ本分ニヨリ其事ヲ評スルニ當テ實ニ其事タル
 欺騙且妄誕ナリト信シ其欺騙且妄誕タルヲ確言スルヲ
 以テ自己ノ義務ヲ盡スモノナリ、又被告ニシテ其事ノ欺騙
 惡意ヨリ起リタリトノ推測ヲ書記スルニ當テ過テ誤謬ニ
 陷ルヲアリトスルモ尙ホ被告ガ適理ノ節制及判斷ニヨリ
 是レ新聞記者ノ義務ナレバ己レノ職分ヲ盡サントスルノ
 意ヲ以テ公平誠實ニ之ヲ掲載シタルモノナリセバ特許ノ

モノナリト主張セラレタリ而シテ大判官コックホルン陪
 審官ヲ命ズル時ニ方リ陳述シテ曰ク爰ニ公衆ノ批評ヲ提
 撥スルノ一人アリ而シテ若シ新聞記者ニシテ己レノ職務
 ナシ盡サシガ爲メニ此問題ヲ論究スルニ方リ事實及推測ニ
 就テ或ハ誤謬ニ陥リ或ハ精密ナル實事ノ區域ヲ超過スル
 ヲアルモ彼レ新聞記者ハ特許セラル、モノナリ抑時機ハ
 特許ノ一物ナリ而シテ此特許ヲ行フニ篤實誠意ヲ以テシ
 其注意ニシテ正道ノ要スル所ニ適合セバ假令ハ新聞記者
 ハ少シク法律上實事ナリト證明セラル、ノ限界ヲ超過ス
 ルヲアルモ敢テ責任アラザルモノナリト
 次ニ文學的批評ニ就テ論述セシニ前篇已ニ論述シタル所
 ノモノヲ再說スルヲ緊要ナリトス即チ文學的批評者ハ此

至緊至難ナル公然ノ義務ヲ盡サシテ企圖スルヲ以テ之
 ニ換フルニ著書ノ功德ナル正當ノ目的ニ違ハザル以上若
 シハ著述家タルヲ利器トシテ私ノ惡意ヲ逞フセンガ爲メ
 ニ人身ノ非難ヲ爲サバ爾以上ハ己ガ學力上ノ最モ制限ナ
 キ使用ヲ特許セラレテアルモノナリ

讒謗法論第二篇終

讒謗法論

第三篇 讒謗ノ詞訟

此篇ハ眞ニ讒謗セラレタル人若クハ讒謗セラレタリト自
ラノミ信ズル人ヲ考究シ及諸詞訟ノ方法、詞訟ヲ起スニ足
ルベキ證據、回復スベキ損害及訴訟入費ニ關スル一般ノ規
則ヲ詳論スルニアリ然リト雖モ讒謗セラレタル各個人ガ
法律上ノ救正ヲ求ムルコトヲ決定スル以前ニ在テ己ノ自身
ノ位地、及讒謗シタリト假定スル讒者ノ辨護ヲ量識スルハ
亦被讒者ニ取テ無益ノ事ニアラザルベシ
第一讒謗トハ何ツヤ讒謗トハ他人ノ名譽ヲ害シ公衆ヲシ
テ其人ヲ厭忌汚辱嘲弄セシメント欲シテ印刷物、筆書若ク
ハ圖書ヲ以テ言顯シタル惡意ノ誹毀ナリ而シテ讒謗ハ輕

慢凌辱ヲ須テ之ヲ論ゼズ被告ハ唯公衆ヲシテ原告ヲ嫌惡
 スル念慮ヲ起サシメ若クハ公衆ヲシテ原告ヲ侮辱嘲弄ス
 ルニ至ラシムベキヲ以テ足レリトス
 讒謗ニハ必ズ二個ノ救正アリ其一、刑事上ノモノニシテ公
 訴ヲ以テ爲スモノ其一、民事上ノモノニシテ詞訟ヲ以テ爲
 スモノ是レナリ
 刑事上即チ公訴ヲ以テ爲ス所ノ救正ハ各讒謗タル被讒者
 ナシテ是レガ爲メ或ハ公安ヲ破ルノ犯罪ヲ行フニ至ラシ
 ムルノ傾向アルヲ以テ讒謗ヲ以テ公犯ナリトシテ之レガ
 救正ヲ爲スモノナリ
 民事上即チ詞訟ヲ以テ爲ス所ノ救正ハ被讒者ノ損害ヲ回
 復スルニアリ即チ其人ノ被リタル害ノ爲メニ貨幣ノ賠償

ヲ得ルニアリ

凡ソ讒謗ヲ告訴セント欲スル者ハ郡吏ノ手ヲ經由セズ直
 チニ豫審陪審官ノ目前ニ出テ、告訴狀ヲ奉呈スルヲ得
 ベシ何トナレバ讒謗ノ犯罪タル簡單ナル手續ニ依テ告訴
 スルヲ得ベキモノナレバナリ
 裁判廳ハ些細ナル讒謗ノ告訴若クハ極貧ノ人ニ對スル讒
 謗ノ告訴ヲ受理セズ而シテ假令ヒ各讒謗ハ刑法上ノ犯罪
 ナルニモセヨ輕慢、騷擾若クハ穢褻ノ公布又ハ官人ニ關ス
 ル讒謗ノ如キ公然タル讒謗ノ場合ニ於テハ唯檢事之ニ關
 涉スルノミ

第^ニクトリア即位五年同六年ノ法令第三十八章第一項ヲ以
 テ國會議員此罪ヲ犯スモ之ヲ審問ス可カラズトセリ

讒書ヲ出版セラレタル各人ハ是ガ爲メニ被ル害タル只ニ
 法律ノ誹謗ノ事柄ノ公布ニ就テ預定シタルモノニ過ギザ
 ルモ詞訟ヲ起スノ權利アリ
 英國ニ於テハ讒謗ノ詞訟ノ出訴期限タル其公布ヨリ六年
 ナ過ク可カラズトセリ但シ此事タル第一ノ公布タルヲ要
 セズ而シテ其六年ヲ過ク可カラザルヲ例センニ千八百
 三十年一新聞紙ニ讒謗ノ公布ヲ爲シタルモ當時被讒者ハ
 之ガ爲メニ一ノ詞訟ヲ起サズ千八百四十八年ニ至リ被告
 ノ新聞社ニ於テ原告ノ一證據人ガ其讒謗ニ關スル原稿ヲ
 購求シタルヨリ千八百四十九年ニ至テ之ガ詞訟ヲ起シタ
 リ然ルニ此詞訟ハ出訴期限ノ規則ニ背戾シタルモノト主
 張セラレタルガ如シ

讒謗ノ爲メニ起ス所ノ詞訟モ亦他ノ私訴犯ノ詞訟ニ於ケ
 ルガ如ク若シ被告ノ讒謗ニシテ原告連帶ノ利害ニ關スル
 一明白ナルニ於テハ數人連帶シテ原告トナルヲ得
 故ニ商社ノ社員ハ其商業上ニ影響スル讒謗ノ爲メニ特殊
 ノ損害ヲ其商社ニ被リタルヲ證明スルニ於テハ連帶詞
 訟ヲ起スヲ得然レモ若シ其讒謗タル其社員一個ノ道德
 上ノ行爲ニ關スルキハ連帶詞訟ヲ起スヲ得ズ
 各合資會社ハ其共同財産若クハ商業ヲ害シ又ハ其株券ノ
 價格ヲ低落セシムル讒謗ニ對シテ詞訟ヲ起スヲ得而シ
 テ其讒謗タル會社ニ關係ナキ人、會社々員若クハ會社ノ株
 主ノ別ヲ問ハザルナリ亦合資會社ニアラザル所ノ會社ト
 雖モ若シ國會ノ條例ヲ以テ社長在職ノ間其名目ヲ以テ詞

証ヲ爲ス₁ヲ許サレタルキハ社長ハ其會社ニ關スル讒謗
 ニ對シテ詞訟ヲ起ス₁ヲ得
 英國所屬ノ人民ハ假令ヒ外國ニ其住處ヲ占定スルモ若シ
 讒謗セラレタル時ハ英國ニ於テ詞訟ヲ起ス₁ヲ得
 凡ソ詞訟ヲ起スト決定シタル時ニ方リ之ヲ爲スハ如何ナ
 ル裁判廳ニ於テスベキヤトハ是レ一ノ考究スベキ問題ナ
 リ而シテ若シ原告ノ請求狀中ニ其場所ヲ指定セザルキハ
 ミドルセツキスニ於テスルヲ常トセリ然レモ讒謗ノ詞訟
 ニ就テハ他ノ詞訟ニ反シテ一定ノ裁判廳ナク又一ノ裁判
 廳ヨリ他ノ裁判廳ヘ移ス₁ヲ得ルモノナリ而シテ或ハ原
 告ノ撰擇スル某ノ郡裁判廳ニ於テスルヲ得ベシト雖モ之
 ヲ爲スニ方テハ被告並ニ當初出訴シタル裁判廳若クハ判

官ノ許諾ヲ得ザル可カラザルナリ

新聞紙ニ對シテ讒謗ノ詞訟ヲ起スニ方テハ或ハ該新聞紙
 ノ勢力ヲ該地方ニ得ルノ影響ヨリシテ實ニ回復スベキ原
 告ノ權ヲモ之ヲシテ危險ナラシムル₁アリ故ニ原告タル
 モノハ其之ヲ出訴スベキ裁判廳ヲ決定スル以前此點ヲ度
 量スルヲ宜シトス其一度確定シタル後ニ於テハ單ニ被告
 ガ有スル機關ノ影響アルガ爲メニ之ヲ變改スルハ難事ナ
 ルベシ然リト雖モ若シ被告ニシテ審問ノ以前ニ在テ詞訟
 ノ事ニ關シ原告ノ身上ニ影響スル事柄ヲ公布スル₁アラ
 シ₁ハ彼レ原告ハ適當ニ裁判廳ノ保護ヲ請求スルヲ得ベ
 シ

證據

讒謗ノ詞訟ニ於テ原告ノ提出スベキ證據ノ順序ハ左ノ如シ

(第一) 讒謗ノ公布

(第二) 讒謗ト原告ノ關係アルヲ及詞訟ニ緊要ナル實事

(第三) 若シ法律上ノ假定抗辨解答セラレタルキハ被告ノ惡意及故意

(第四) 損害

抑讒謗ノ詞訟ニ於テ訴人即チ原告ノ首トシテ證明スベキモノハ被告ガ己レニ對シテ負ハシメタル事柄ヲ公布シタルニアリ一人ヨリ他人ニ爲ス所ノ言語ノ通信ハ總テ公布ナリトス出版スルトハ唯ニ書物ヲ(印刷)スルト謂フニ非ズ亦「發賣」ト謂フヲ指示スルナリ英國ニ於テハ思想ヲ吐

露スルニ唯一通ノ言語ノミナリ之ニ反シテ日耳曼ニ於テハ二通アリ故ニ一書物ヲ印刷スルヲ「ヘロースヂエシエベ」ト曰ヒ發賣ニナリタル時ヲ以テ出版セラレタリト曰フ「詞訟」セラレ可キ公布ヲ組成スルヲ即チ民事ノ詞訟ニ依テ救正ヲ與フベキ如キ公布タランニハ第三ノ人ニ公布スルヲ必要トス即チ著述家、出版人若クハ批評セラレタル人以外ノ人ニ公布スルヲ必要トス如何ナル言語ヲ用ユルトモ第三ノ人ニ公布セザルキハ讒謗ノ詞訟ヲ起スノ權利アルヲ無シ著述家或ハ出版人ノ夫若クハ妻及批評セラレタル人ノ夫若クハ妻ハ第三ノ人トシテ思考セラル、モノトス「讒謗」ハ諸般ノ方法ヲ以テ之ヲ公布スルヲ得之ヲ例セバ高聲ニ朗讀スルヲ、賣捌クヲ、謝報ヲ受ケズシテ配付スルヲ、

第三ノ人ニ遞送シ若クハ電信ニ依リテ之ヲ通信スルヲ又
 ハ公布ヲ担当スル代理人ノ手ヲ經テ第三ノ人ニ通知スル
 ヲ等ノ如シ
 公布ニ就テハ被告其責ニ任セザルヲ得ズ故ニ被告公布ヲ
 爲シタルヤ否ヤハ即チ陪審官ノ討究スベキ事實ノ疑問ニ
 シテ被告ノ責任ヲ負フ公布ハ罪トナルベキヤ否ヤハ法律
 上ノ疑問ナリ而シテ法律上ノ疑問ハ裁判廳ノ司ドル所ト
 ス即チ被告ニシテ公場ニ讒書ヲ貼出シタルモ一人トシテ
 之ヲ讀過セザル以前ニ剝取リタルノ事實アルハ法律上
 ヨリハ之ヲ論シテ公布無シトス可シト雖モ若シ之ヲ剝取
 ラザル以前ニ誰人カ之ヲ讀過シタリトノ疑アルトキハ其
 事實ノ有無ニ對シテハ陪審官ノ討究ス可キ疑問ナリトセ

公布ハ讒書ヲ被告ノ店ニテ賣捌キタル證據ヲ以テ證明セ
 ラル、ヲ得而シテ此事タル世人ノ出版人ト認定スル所ノ
 人ニ該書ノ出版ヲ命ジタルノ確實ナル證據ナリトス
 ドメンズフヒールド曰ク公然ニ賣捌キ及公然ニ賣捌ンガ
 爲メニ店頭ニ排列シ若クハ店頭ニ於テ他人ヲシテ賣捌シ
 メ若クハ其賣捌事務ニ關涉シタルノ證據アルニ於テハ讒
 書ヲ作ルノ密議ニ參セズ又ハ其行爲ニ關係セズト雖モ廣
 文律上該店ノ主人ヲ有罪ナリトスルニ足レリト且誰計ア
 リシニアラザレバ公布アリトスルハ錯誤ナリト辨解スル
 ノ責ハ被告之ヲ担当スベキモノナリトス
 一證據人ニシテ印刷者ナリシヲ及或文書ヲ印刷シタル時

ニ方テ被告ノ出版局ニアリ而シテ該文書ハ該局ニ於テ印刷セテレタルヲ見而シテ原告ノ證據トシテ提出シタル文書ハ被告ノ出版局ニ於テ用ユル鉛字ヲ以テ印刷シタルモノニシテ余ノ善ク知ル所ノモノナリト誓言セバ此事タル被告ノ公布ニ就キ一目瞭然ナル證據ナリトス且此ノ如キノ場合ニ於テハ實ニ證據人ハ其證據ノ明確ナルニ依テ其特權ヲ請求スルニ非ズシテ己レノ偽證ヲ爲スニ於テハ其罪ヲ免カレザル可キヲ恐レテ己レノ知ル所ヲ細大漏サズ陳述スルヲ常トセリ

若シ著述家被告ニシテ出版人被告タラザルハ其文書タル被告ノ手書タルヲ及印刷出版サレタルヲ證明スルニ於テハ公布ノ充分ナル證據ナリトス且被告ノ印刷若クハ

出版ノ内何レニ付シタルヤヲ證明スルノ證據ヲ要セズ而シテ讒謗ヲ公布シタル新聞紙出版人ノ家ニ於テ發見シタル被告ノ手書ノ文書ハ被告ノ公布シタルヲ證明スルヲ許可セラルベキナリ

ロルドホルト主張シテ曰ク或人自ラ書記シ而シテ其著述家ノ知レザル讒書ヲ原告提出スルヲアルモ若シ其讒書ヲ作リタル人ヲ發見スルヲ能ハザレバ被告ハ其責ヲ免ルベシ之ニ反シテ被告ノ有罪ヲ判定スルニ其手書ノ證據ヲ以テスルハ被告ノ讒書ヲ書記シタルヲ見タルカ若クハ屢其書翰等ヲ目撃シテ被告ノ手迹ヲ熟知スルノ人ヲ召喚セザル可カラズ故ニ商社ノ書記ハ其商社ニ領收シタル被告ノ書翰ヲ知ルヲ以テ被告ノ手書ナリヤ否ヤヲ鑑定セシメ

ンガ爲メニ裁判廳ニ召喚セラレベシト
 曩時ニ在テハ陪審官及證據人ハ被告ノ他ノ書類ト讒書ト
 ナ比較スルヲ許可セラレザリシガ現今ニテハ^キクトリ
 ア即位十七年及十八年ノ成文律第二百二十五章第二十七項
 ニ依テ許可セラレタリ其畧ニ曰ク判官ノ真正ナルモノト
 認定シタル或書類ト爭論ノ書類トナ比較スルハ證據人
 ニ許可スベシ而シテ此ノ如キ書類並ニ之ニ關スル證據人
 ノ證據ハ真正ナル證據トシテ裁判廳及陪審官ニ提供スル
 ナ得ベシト又鑑定人ハ被告ノ手迹ヲ熟知シタル證據人ノ
 如ク此比較ヲ爲スヲ得ベキナリ
 被告ガ讒書ヲ自ラ書記シタルト或ハ己ノ手ヲ以テ他人
 ニ讒書若クハ其原稿ヲ賣却シタルト若クハ貸與シタルト

ナ證明スルハ必要ノ點ニアラズ故ニ被告ニソ他人ニ讒書
 ナ書記スルヲ求メ若クハ書記セシメタルト雖モ同ク
 有罪ナリトスレグヨリ^クパーニ對スル詞訟ニ於テ被告
 ニ對スルノ證據ハ讒書ヲ出版シタル新聞紙出版人ノ提供
 シタル證據ナリシナリ何トナレバ彼ノ出版人ノ陳述ニ依
 レバ被告^クパーハ原告及其弟ヲシテ公衆ノ侮辱ヲ受ケ
 シメントノ意アルヲ出版人ニ向テ吐露シ且讒書ノ基礎
 トナルベキ說話ヲ爲シ而シテ出版人ハ之ヲ該新聞ノ報告
 者ニ告ケ且讒書ハ此手續ニ由テ通信サレ其書ノ新聞上ニ
 現出シタルト被告ハ甚ダ之ヲ喜ブト云ヒシト言フナ以テ
 ナリ故ニ判官ウイットメンハ陪審官ニ向テ被告ハ讒書ヲ
 出版セシメタルヤ否ヤノ問ヲ起シ且該書出版ノ後ニ被告

ノ之ヲ喜ビタルハ即チ被告ノ願望シタルヲ證明スルノ證據ナリシトノヲ曰ヘリ

此外一ノ出版人トシテ被告ノ責任アルヲハ讒謗ノ事件ヲ新聞紙へ挿入セシメンガ爲メニ該出版人若クハ印刷人へ金錢ヲ拂ヒタルヲ或ハ被告ハ讒書ノ作者ナルヲ許シタルヲ原告ニ於テ證明スルヲ以テ明カナリトス

又被告ニシテ假定ノ讒書ノ記者ナルヲ許スモ其中ノ一ニハ誤謬ナリトスルキハ其誤謬ハ被告ニ對スル誹謗ノ本質ナルヲ證明スルノ責任ハ被告ノ担当ス可キ所ナリ

一證據人タルモノハ如何ナル人が假定ノ讒書ヲ書記シタルカヲ質問セラル可シ而シテ此事タル其本人ヲ知ル時ニ限ル已ニ證據人ニシテ其人ハ誰ナルヲ確答スルニ於テ

ハ其他ノ事ヲ述ブルヲ要セズ何トナレバ此事タル己チ害スルノ憂アルヲ以テナリ

封紙ニ郵便局ノ押印アルハ書翰ヲ以テ公布シタル一目瞭然ノ證據ナリトス又宛名ノ人ノ誓詞ナキモ第三ノ人ニ宛テ送りタル書翰ヲ原告提出スルニ於テハ同上ノ證據ナリトス而シテ被告ガ内密ニスベキヲ吩咐シテ證據人ニ公布シタルノ實事ハ此ノ如キ證據人ノ提出スル公布ノ證據ノ妨礙トナルヲナシ

公布アリシヲ證明スルノ後第二ノ處置ハ讒書ヲ出シテ之ヲ讀ムニアリ若シ其原稿被告ノ手ニアルヲ明カナル時ニ於テ之ヲ請求スルモ被告ニ於テ肯ゼザルキハ寫ヲ以テ足レリトス

訴人即チ原告ニ讒書ノ擬シタルヲ證明セシメハ原告ト
 知己ニシテ且其讒謗セラル、ノ事情ヲ知リ又其讒書ヲ讀
 ミタル證據人ヲ召喚ス可シ而シテ證據人ハ該讒書ヲ記シ
 タルハ誰ナルカヲ質問セラルベシデニホストヨリベルス
 ホルドニ對スル詞訟ニ於テロルドニシテニボローハーノ圖
 畫ヲ視ル其見物人ノ爲ス解明ハ其圖ハ誰ヲ指示スルモ
 ノナリヤテ證明ス可キ證據トシテ許ス可キナリト主張シ
 タリキ
 次ニ原告ハ被告ノ惡意アルヲ證明スルニ盡カスベシ而
 シテ其公布中ニアルノ惡意ハ之ヲ證明スルニ困難ナカル
 ベシ蓋シ法律ハ被告ガ其公布ノ効果ヲ満足シ且其効果ア
 ラノヲ企圖シタリト假定スルヲ以テ其惡意ナキヲ辨解

スルノ義務ハ寧ロ被告ニアリトス若シ又之ニ反シテ原告
 ハ被告ニ惡意アリト推定スルモ公布ノ時機之ヲシテ然ラ
 シムルナリト被告ノ爲メニ抗辨解答セラル、ニ於テハ原
 告ハ廢訴ヲ避ケンガ爲メニ讒書ハ惡意ノ眞證據ヲ含有ス
 ルヲ證明シ且其現然ノ證據ヲ示サザル可カラズ抑惡意
 ナ法律上ニ假定スルヲ抗辨解答セラレシヤ否ヤハ法律
 上ノ事柄ニシテ判官ノ判決ス可マ所ナリト雖モ惡意ノ或
 證據アルキハ此事柄タル陪審官ノ斷定ニ委任セザル可カ
 ラズ
 讒謗ノ字句ハ時アリテ惡意ノ明白ナル證據トナルヲアリ
 例之若シ實事ヲ報告スルニ當テ記者タルモノ其報告スル
 實事ヨリ惹起スヲ能ハザル惡意ヲ以テ正道ヲ超過シテ人

ナ非難セシ場合ノ如キ是レナリ而シテ其書現然ノ事情並
 ニ惡意アリヤ否ヤニ就テ判斷ヲ下スベキハ陪審官ニアリ
 トス或ハ虛言ハ惡意アルノ證據ナルベシト言フモノアリ
 ト雖モ此事タル常ニ然ルニアラズ虛言ヲ以テ惡意アルノ
 證據トスルニハ先ヅ公布者自ラ虛言ナリト知リタリト云
 フヲ證明セザルベカラズ
 讒書ノ一部分ニ虛説ノ證據アルキハ時機ニ依テ抗辨解答
 セラル、ヲ得タル惡意アルノ假定ヲ陪審官ノ再ビ起ス
 證據ナリトス又原被兩造不和ナリトノ證據アルキ陪審官
 ハ被告ノ讒謗ハ全ク惡意ヨリ出デタルモノト推定スルモ
 ノナリ
 被告ノ惡意ヲ證明スルノ責ハ原告ノ担当ス可キモノナリ

而シテ讒書ヲ公布スルニ就キ被告ノ行爲ハ其書中ニ顯ハ
 レタル惡意ノ由テ起リタル誘原ノ曩時ニ在テ存在セシ
 ナ表明スルモノトスルヲ得ベシ且被告ガ絶エズ讒謗ノ公
 布ヲ爲スヲハ其惡意アルヲ呈示スルモノトス又其讒書ヲ
 出版シタルト同時ニ原告ニ宛テ(無名若クハ記名)被告ノ送
 リタル書翰ハ如何ナル心ヲ以テ此讒書ヲ出版シタルカヲ
 證明スルノ證據トナルベシ且時機ニヨリ一目瞭然ニ特許
 ノモノナルニモセヨ此事タル被告ノ企圖ヲ陪審官ニ指示
 スルヲ得

損害

讒謗ノ記述ニ由テ被ラシタル諸損害中ノ一ハ其多寡ヲ測
 定スルノ頗ル至難ニシテ到底能ハザルモノナリ之ヲ例セ

ハ訟師、醫師若クハ商人ニシテ讒謗セラレタルニ據リテ生
 シタル損害ノ格段ナル例ヲ枚擧スルマデ其名譽若クハ信
 用上ニ受ケタル讒謗ノ救正ヲ得ルヲ能ハザルキハ彼レ訟
 師等ハ必ズ其證據ヲ提出セザルニ先テ早ク已ニ零落ス
 ルヲアルベシ抑被告ノ與フル毀害ノ多寡ハ唯原告ノ受ク
 ル損害ノ量ニ關係ヲ有スルモ其詞訟ヲ起スノ權利ニハ關
 係ヲ及ボサザルナリ
 抑損害ニ二アリ一般ノ損害特別ノ損害是レナリ一般ノ損
 害トハ陳訴サレタル罪惡ヨリ起リタリト法律ノ認許シ若
 クハ假定スル損害ヲ曰フ特別ノ損害トハ法律ノ認許セザ
 ルモノニシテ或害ニ伴フテ起ル損害ヲ曰フ而シテ特別ノ
 損害ハ有害ナル行爲ヨリ起ル一般ノ損害ニ付着シタルモ

ノカ若クハ其結果ノミ有害ナルモノニシテ其正當ナルヲ
 以テ詞訟ヲ起スヲ能ハザル行爲ヨリ起ルモノナリ
 損害ハ格段ニ原告ガ特別ノ損害要償ヲ爲スニ非レバ之ヲ
 申供スルヲ要セズ何トナレバ一般損害ノ多寡ヲ計量スル
 ニ就テ陪審官ニ許可セラレタル區域ハ讒謗ノ詞訟ニ於テ
 原告ハ殆ド特別ノ損害要償ヲ爲スヲ稀レナルガ如ク頗ル
 廣大ナルヲ以テナリ就中原告ニ於テ特別ノ損害要償ヲ爲
 スノ證據ヲ得ルニハ著シキ困難ト浪費トヲ受クルモノナ
 リ然レモ被告ノ行爲ハ原告ノ既得ノ權利ニ影響セシカ或
 ハ將來ニ得ベキ利益ヲ妨害シタルヤテ記憶スルハ善事ナ
 リトス博學ナル著述家ハ曰ク善良ナル感覺、善良ナル論理
 若クハ善良ナル法律ト併立シテ他人ノ行爲ヨリ受ケタル

損害ヲ回復スベキ人ハ其詞訟ヲ起スニ至リタル行爲ト之レガ爲メニ被リタル損害トノ間即チ原因ト結果トノ關係アルヲ其詞訟ノ緊要部分トシテ證明セザル可カラズト依是觀之特別ノ損害要償ヲ爲サント欲セバ餘リ甚シキ關係ノ遠因ヲ求メズシテ宜ク讒謗ノ直接ナル結果ニ據ラザル可カラズ

原告ハ非難ノ性質ニ就テ詞訟ヲ起シ若クハ其被リタル害ノ大ナルニ由テ證據ヲ申供スルヲ得例之社會ニ於ケル原告ノ位地及情況被告ノ害心、惡意若クハ非難ノ誤謬ナルハ被告自ラ覺知スルヲ、讒謗流布ノ廣狹若クハ辨解ノ粗忽ナルヲ等ノ如キモノ是レナリ然レモ被告ノ貧富又ハ原告ノ心中ニ感覺スル辛苦ノ如キハ之ヲ算入ス可カラズ

商業上ニ就キ讒謗セラレタルハ原告ハ之ガ爲メ商業衰頹シタルノ證據ヲ枚擧セザル可カラズ何トナレバ陪審官ハ原告ガ如何ナル商業ヲ爲セルヤヲ知ラザル可カラズ且其償金ノ高ハ大ナル商業ト小ナル商業ニ於ケル場合トハ同一ニ賠償セシム可カラザルヲ以テナリ

同一ノ讒謗ニ付キ起シタル未決ノ諸詞訟アルモ陪審官ハ此諸詞訟ヲ一括ニスルヲ能ハズ何トナレバ被告ノ惡事ヨリ起リタル損害ニ付テハ各自原告ハ被告ニ對シテ其損害ヲ回復スルノ權利ヲ有スレバナリ

以上論述シタル所ハ讒謗ノ爲メニ起ス詞訟ニ就テ原告ノ提出スベキ證據ノ要領ナリトス而シテ原告ハ一般ニ先ヅ之ニ依テ其詞訟ヲ起シ又新證據ヲ提出シテ被告ノ辨解ヲ

駁撃スルノ權利ヲ保持スト雖モ原告ハ若シ適當ト思考スルキハ被告ハ如何ナル辨解ヲ爲スベキヤヲ先見シ最初ニ總テノ證據ヲ提出スルヲ得ベシ然リト雖モ原告ハ最初ニ此ノ如キ證據ノ一部分ヲ提出シ而シテ被告ノ辨護ニ對スル答辨ノ爲メニ殘餘ノ證據ヲ貯存シ得ザルモノトス

訴訟入費

茲ニ一ノ考究スベキアリ即チ訴訟入費ノ疑問是レナリ乞フ之ヲ論述セン讒謗ニ就テ一私人ニシテ告訴スルニ方リ若シ被告ニシテ有罪ノ判決ナキキハ被告ハ告訴人ニ對シ訴訟入費ノ辨償ヲ請求スベキナリ
讒謗ニ關スル民事ノ詞訟ニ於ケル普通ノ規則ニ據レバ若シ陪審官ニシテ原告ハ其損害ノ爲メニ十封度以下ノ賠償

ヲ得ベシトスルキハ裁判廳若クハ判官ニシテ原告ニ其詞訟ノ爲メニ費シタル訴訟入費ヲ被告ヨリ受取ルヲ許可スルカ若クハ下條ニ記述スル場合ノ外ハ郡裁判廳ニ於テ受理ス可カラザル犯罪ナルニモセヨ其詞訟ハ上等裁判廳ニ出訴スルノ理由アルヲ原告ニ於テ證明スルニ非ザレバ其訴訟入費ヲ請求スルヲ能ハズ抑讒謗ニ關スル詞訟ハ原被兩造若クハ其代言人ニシテ記名調印シタル證書ヲ差出シ其之ヲ爲スノ合意ヲ表スルニ於テハ郡裁判廳ニ於テ審問スルヲ得ベシ而シテ少クトリア即位三十年同三十一年ノ法令第四百二十二章第十項ニ據レバ若シ被告ニシテ原告ハ被告ノ訴訟入費ヲ拂フヲ得ルノ明白ナル手段ヲ有セズト誓言スルキハ陪審官ハ原告ノ爲メニ判斷ヲ下サバ

ルベク又該詞訟ヲ受理シタル裁判廳ノ判官ハ原告ニ向テ一家主ヲシテ其被告ノ訴訟入費ヲ拂フヲ保證セシメ若クハ該詞訟ハ上等裁判廳へ出訴スルノ適當ナル原因アルヲ判官ニ満足セシムルヲ命ズルヲ得而シテ若シ原告ニシテ此二者中何レヲモ爲スヲ能ハザルキハ判官ハ郡裁判廳へ該詞訟ヲ移スヲ得ベキナリ

讒謗法論第三篇終

讒謗法論

第四篇 讒謗詞訟ノ辨護

此篇ニ於テ吾人ハ他人ヲ讒謗シタリトテ詞訟ヲ受ケタル人が訴人即チ原告ノ詞訟ニ答辨シ以テ己ノ責任ヲ減輕スルノ方法ヲ考究セントス

(第一) 詞訟ノ拒絕

(第二) 詞訟ノ權利ノ拒絕

(第三) 特許ノ時機

(第四) 讒謗ノ辨解

(第五) 辨解書ノ呈示

(第六) 償金ノ減輕

第一 詞訟ノ拒絕

第四篇

拒絕ハ讒謗ナリト假定セラレタル公布及其讒謗ノ性質ノ
 二者ニ適用ス可キナリ
 讒謗ナリト假定セラレタル公布ニ就テ論述センニ先ヅ誰
 人ヲ以テ其公布者トスベキヤ
 卓識ナル判官ベレノ定説ハ此疑問ノ確實ナル答辭ト
 ナルベキモノナリ其説ニ曰ク讒書ニ就テ出訴セラルベキ
 人ハ當ニ當初印刷シタル人ニ止マラズ該讒書ヲ賣捌キタ
 ル人及其寫ヲ他人ニ分賦若クハ貸與シタル人及該書ノ事
 件ヲ陳述シタル人ハ皆同ク其公布者トシテ出訴セラル可
 キモノナリト抑數人連帶シテ讒謗ノ公布ヲ爲シタル時ニ
 於テ被害者ハ一詞訟ヲ以テ其數人ヲ訴フルト否ラザルト
 又ハ其中ノ某ヲ訴ヘ某ヲ訴ヘザルトヲ撰擇スルノ權利ア

リトス何トナレバ行害者ノ間彼我同一ニシテ甲乙ナキヲ
 以テナリ而シテ此撰擇ノ權利ヲ原告ニ與フルニモ拘ハラ
 ズ裁判廳ハ特別ノ理由ナク原告ニシテ同一ノ詞訟ニ付キ
 各別ニ數人ヲ訴フルキハ之ヲ一括ニシテ訴フベキヲ命
 ズルヲ得若シ其中ノ被告ニシテ他ノ被告ト別個ノ件ヲ請
 求スルコトアルトキハ他ノ被告ニ關係ナク判斷ヲ下サンノ
 ニ
 新聞社ノ社主ハ該新聞紙欄内ニ掲載シタル事柄ニ就テハ
 其廣告ト雖モ總テ責任ヲ負フモノトス而シテ該社主ハ出
 版人ニ對シテ己レノ損害ヲ回復スルコト能ハズ抑此責任ア
 ル所以ハ或人他人ニ依頼シテ事ヲ行フハ其自ラ行フモノ
 ナリトノ原則ニヨリテ現在新聞紙出版人ノ行爲ニ就テハ

社主總テ其責ニ任ズルニ職由スルモノナラン歟且此責任タル印刷人、出版人、賣捌人若クハ傳達人ニモ及ボスモノニシテ其中傳達人ハ假令讒書ノ目錄ダモ知ラザルヲ以テ其惡意ナキヲ證明スルコトアルモ決シテ其責ヲ免ル、コト能ハザルモノトス然リト雖モ新聞紙ニ對スル詞訟ニ於テ若シ其公布ヲ爲シタルノ被告ハ其出版人、印刷人若クハ社主ニアラザルコト及此等ノ人ノ公布ニ關涉セザルコト證明スル時ハゾクトリア即位六年同七年ノ成文律第九十六章第七項ヲ以テ制定シタル手續ニ據ルベシ之ヲ詳説スレハ新聞社ノ代辨人が該公布ヲ爲シタリト法律上認定セラル、ヲ以テ被告ハ其公布ヲ爲シタルハ己レノ新聞社ヨリ委任セラレタル權限外ノモノナルコト及其公布タル決シテ他人

ヲ害スルガ如キ不注意ヨリ起リタルニアラザリシコト證明ス可キナリ

已ニ然ルルハ該公布ハ讒謗ニアラズト推定セラルベシト雖モ其之ヲ確定セシガ爲メニ被告ハ原告が己レニ蒙ラシメタル如キ惡意ナキコト及原告が惡意アリトスル被告ノ章句ハ其行文中曾テ此ノ如キ惡意アルコトナキコト證明セシガ爲メ明白ニ讒謗ノ問題ト關係連結スル所ノ同公布中ノ他ノ章句ヲ證據トシテ提出スルコトヲ得ベシダービーヨリオースレーニ對スル詞訟ニ於テロルドチーフパロンボルトツク曰ク他ノ章句ヲ提出スル時ニ方テハ讒謗ナリト假定セラレタル章句ト他ノ章句トヲ參看對照シテ其讒謗ノ章句ヲザルコト說明スルヲ緊要ナリトスト

第二 詞訟ノ權利ノ拒絶

被告ニ於テ爲ス可キ第二ノ處置ハ原告ハ詞訟ヲ起スノ權利アリヤ否ヤヲ疑問スルニアリ抑詞訟ノ權利ハ歲月ノ經過シタルニ由テ消滅スルモノナルヤ否ヤヲ討究スルニ抑出訴期限タル成文律ノ示ス所ニ據レハ詞訟ノ原因即チ讒謗ノアリタル時ヨリ六年内ニ之ガ詞訟ヲ起サバ爾可カラズ然レモ前篇ニ論述セシ如ク讒謗ノ犯罪タル共事柄第一ノ公布ノミニ限レルモノニアラズ

次ニ原告ノ出訴シタル被告ノ行爲ハ原告自ラ之ヲ招キタルモノニアラザルヤ否ヤヲ考究ス可シ若シ其行爲ニシテ原告自ラ招キタルモノナルハ之レガ爲メニ救正ヲ請求スルヲ得ズ之ヲ例セバレツキスヨリウワリーングニ對スル

詞訟ニ於テロルドオルバンリー曰ク讒謗ノ詞訟ヲ起スノ原由タルベキ答辭ヲ得ンガ爲メ送リタル書翰ノ返書中ニアル讒謗ニ就テハ救正ヲ求ムルヲ得ズト又ロルドエレンボロー曰ク別段ノ懇請ニ由テ書キタル讒謗ノ圖書ハ詞訟ヲ起スノ原由タルニハ不充分ノモノナリト

此項ニ於テ終リニ考究ス可キハ原告ノ讒謗セラレタル事業ハ不適法ノ事業ナリシヤ否ヤ若クハ詐偽即チ共謀ニテ爲シタル公布シリシヤ否ヤヲ討究スルニアリ若シ此ノ如キモノナルハ法律ハ之ガ救正ヲ爲サハルベシ

第三 特許

特許ニ就テハ此書ニ於テ特ニ一篇ヲ設ケテ論述シタルガ如ク頗ル緊要ノモノナリ而シテ公布ニシテ特許セラレ

ヤ否ヤハ全ク其公布ノ時機ニ由ルヲ以テ今茲ニ此論旨ヲ
詳述セズ

第四 讒謗ノ辨解

讒謗ノ詞訟ニ於テ被告ハ實ヲ以テ之ニ答フルキハ其責任
ヲ免ル、モノトス然レモ此辨護ヲ爲スノ時ニ當テハ戒慎
ヲ加フルヲ要ス何トナレバ若シ此辨護ニシテ充分陪審官
ノ満足スルガ如ク爲スニ非ザレバ現ニ被告ノ原告ニ被ラ
シメタル害ヨリ寧ロ廣大ナル害ヲ被ラシメタルガ如ク陪
審官ノ爲メニ思考セラルベキヲ以テナリ余ノ深ク欣慕セ
ル碩學某氏云ヘルヲアリ曰ク狐疑、暗示、故テニ語意ヲ反覆
シ若クハ誹謗ヲ彼是混淆スルヲハ寧ロ犯罪ヲ廣大ニスル
ノミニシテ却テ陪審官ヲシテ適當ノ罰ヲ被ルベキ故意ノ

悪行ナリトノ假定ヲ起サシムルモノナリト

若シ原告ニシテ被告ノ己レニ惡名ヲ被ラシメタルヲ明
示シテ詞訟ヲ起スキハ被告ハ唯其實ヲ證明スベキノミ然
レモ事此ニ出デズシテ原告ハ唯汎然ト惡名ヲ被リタリト
テ詞訟ヲ起スキハ被告ハ其惡名ヲ被ラシメタルハ原告ガ
嘗テ其惡名ヲ被ルベキ行爲ヲ爲シタルノ時及其時機ヲ逐
一陳述セザル可カラズ又讒謗ニシテ原告ニ犯罪ヲ歸スル
キハ其證據タル公訴ニ於テ陪審官ノ必ズ有罪ト決斷スル
ヲ保障スル如キモノタラザル可カラズ而シテ若シ其犯
罪ヲ歸スルヲニシテ證明セラル、時ハ豫審陪審官ノ手ヲ
經ズシテ原告ヲ審問スルノ當該官署アルナリ大判官コッ
クホルン曰ク一記者ハ己レノ記述シタル文字ニ就テ逐一

證明スルノ責任ナシ唯己レノ論旨ハ此ノ如キ事情アルヲ以テ公平正當ナルモノナルヲ及法律ヲ蔑如シタル如キ不當ノモノニ非ザレバ決シテ惡意ナシト云フヲ陪審官ニ満足セシムルヲ以テ充分ナリトスト

第五 辨解書ノ呈示

ロルドカムベルノ預備シタル此辨護ノ方法ハ被告ノ諸利益中ノ一ニ算入ス可キモノナリ若シ被告ニシテ他ノ方法ヲ用ヒテ己レヲ辨護スルヲ能ハザルハ辨解書ヲ呈示シ且原告ノ損害ヲ償フヲ保證スル爲メ貨幣ヲ裁判廳へ差出スヲ良トス而シテ保證金ヲ出サ、ルハ辨解書ハ全ク効用ナキモノトス假令辨解書ニシテ詞訟ヲ動カスヲ能ハズトスルモ被害者ハ速ニ其損害ヲ回復スルヲ得ベク且

被告ヲシテ原告ニ拂フベキ償金ヲ減輕スルヲ得ベキナリ
辨解書ノ呈示條例第一項ニハ被告ガ辨解書ヲ呈示スルノ意ヲ告白シタル後其出スベキ償金ヲ減輕センガ爲メ被告ハ詞訟ノ起ラザル前若クハ其起リタル後直チニ原告ニ辨解書ヲ呈示シタリト云フヲ證明スルヲ得ベシトセリ而シテ其第二項ニハ被告ヲシテ此ノ如キノ讒謗ハ現ノ惡意ナク且怠慢ヨリ生シタルニアラズシテ新聞紙へ掲載シタリト辨論スルヲ得セシムルヲ及同時ニ貨幣ヲ裁判廳へ拂フベキヲ制定セシガ其後^ガトリア即位八年及九年ノ條例ニテハ必ズ此金額ヲ出スベシト爲セリ
前ニ陳述シタル事情アルニ拘ハラズ被告ノ裁判廳へ拂ヒ

タル金額ト陪審官ノ償金ノ多寡ヲ定ムルコトハ全ク別種ノモノナリトス
凡ソ辨解書ハ大鉛字ヲ以テ誤謬ナク新聞紙中人目ニ觸レ易キ所ニ印刷セザル可カラズ決シテ曖昧ニ紙尾等へ掲載ス可カラズ何トナレバ此ノ如クスルキハ企望ノ目的ヲ達セザルノ恐アルヲ以テナリ

第六 償金ノ減輕

以上列叙シタル五個ノ辨護ハ讒謗ノ詞訟ニ於テ至緊至要ナルモノトス而シテ若シ此五個ノ辨護中一個モ採用セラレザルキハ第一ニ被告ハ原告ノ提出シタル證據ヲ辨難スルノ證據ヲ提出スベク第二ニ原告ニ拂フベキ償金ヲ減輕スベキトニ盡力スルヲ要ス

第一ノ事柄ニ就テ詳論スルハ至難ナリト雖モ第二ノ事柄ニ關シテハ前項ニ記述シタル手續即チ辨解書ヲ呈示シ及裁判廳へ貨幣ヲ拂フコトハ被告ノ犯罪ヲ減輕スベキモノニシテ要スルニ此ノ如クスルキハ被告ハ償金ノ額ヲ減輕スベキ世上ノ風説及其原告ニ歸シタル事件ニ關シ公衆モ被告ト同感ヲ有スルト云フコトノ證據ヲ提出スルヲ得ルノ傾向アルモノトス又ロルドエレンボローハ被告ガ原告ノ名譽ヲ彈劾スルノ證據ヲ提出スルコトヲ許セルモノ、如シ何トナレバ氏ノ説ニ名譽ニ一點ノ瑕瑾ナキ人ト瑕瑾アル人トハ其讒謗セラレタルヨリ被リタル損害ノ賠償同額ナルコトヲ得ズ又被告ハ其瑕瑾アルヤ否ヤノ證據ヲ提出スルノ權アリト曰ヒシヲ以テナリ

陪審官ハ公平ニ償金ノ額ヲ算定スル爲メニ原告ノ行狀及
 他人ノ原告ヲ尊敬スルノ度ヲ考究スルヲ請求セラレベ
 シト雖モ之レニ反シテ他人ニ對スルノ讒謗ニハ一ノ區別
 アルヲナシ被告ハ己レノ貧困ナルヲ證明シ以テ其責ヲ
 免レント欲シ又ハ如何ナル人モ其記述シタル所ヲ以テ實
 事ナリト信用セズト云フヲ確言スルノ權ナク又原告ハ
 自身ニ己レニ對シテ讒謗トナルベキ說話ヲ爲シ若クハ其
 假定ノ損害ヲ既ニ回復シタリト云フヲ確言スルヲ以テ
 辨護スルヲ能ハズ蓋シ被告ハ唯簡單ニ其辨解ヲ爲スナラ
 トス
 被告ノ代言人ハ屢陪審官ト最終ノ言辭ヲ發スルノ利益ヲ
 得ンガ爲メ先ヅ證據ヲ出スヲ見合スモノナリ此事タル

證據人詰問ノ時ニ當テ落膽シタル證據人ヲ出スヨリ寧ロ
 往々被告ノ爲メニ利益トナルモノナリ而シテ詞訟ノ事タ
 ル全ク之レニ關スル法律及事實ノ情況ニ因ルモノナルヲ
 以テ普通一般ニ適スルノ原理ヲ論定スルヲ得ズ故ニ詞
 訟人ハ老練ノ代言人ニ依頼スルヲ利益アリトスベシ
 余ハ尙ホ此論旨ニ就テ詳述セント欲スルモ固ヨリ小冊子
 ノ周ク盡ス所ニアラザルヲ以テ先ヅ此書ヲ著スニ方テ參
 考書トナシタル書ヲ著シタル博學ナル著述家ニ感謝スル
 ナ以テ此書ノ結尾ト爲スト云爾

小川光亨 校

讒謗法論第四篇大尾

明治十五年十月廿八日版權免許
同 十六年五月出版

定價金六十錢

譯述兼出版人

千葉縣士族

佐藤覺四郎

東京本所區林町二丁目二番地寄留

賣	所
日本橋區通三丁目	丸屋善七
芝區柴井町	土屋忠兵衛
同 吉川町	島屋一介
淺草區茅町	北澤伊八
同 西川岸町	須原鐵二
神田區雜子町	巖々堂
京橋區銀座四丁目	博聞社
同 小川町	秩山堂
芝區三島町	山中市兵衛
	下總千葉立真舍

新刊書籍

英國 ベンサム 著

日本 島田三郎 閱

佐藤覺四郎 譯

憲法論綱

全一冊

定價金三十八錢

右ハ有名ナル英國ノ法家ベンサム氏ノ著ニ係リ實利主義ヲ以テ憲法ノ原理ヲ精細ニ論究セシモノニシテ如何ナル憲法ヲ制定セバ國民ヲシテ幸福ヲ享受セシムルヲ得ベキヤヲ開示スルノ書ナルヲ以テ政談講學ニ從事ノ諸士ハ勿論苟モ眼ヲ政治上ニ注ギ我國將來ノ憲法ニ就キ其利害ヲ討究セラントスルノ諸君ハ須讀ノ良書也

賣捌所

丸善

島一

泉市

博聞社

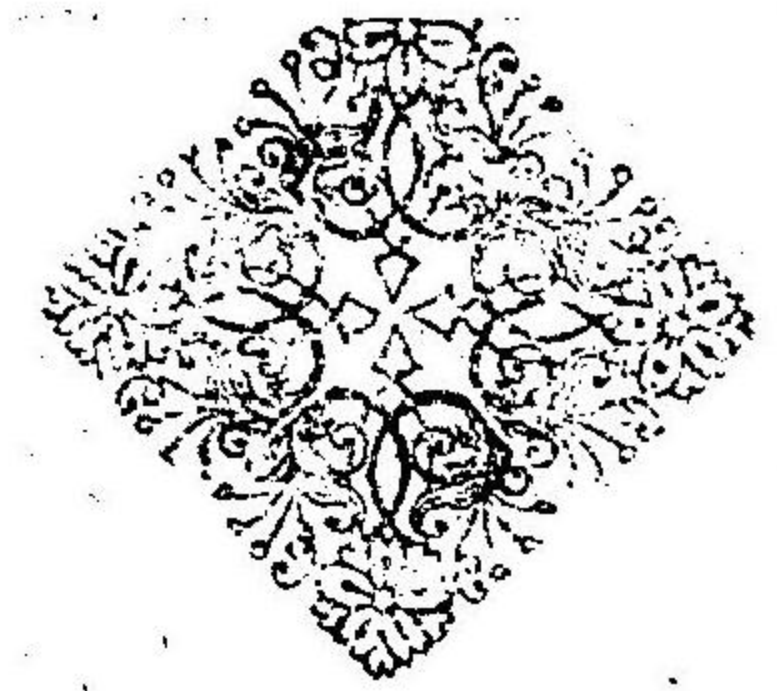
千葉立真舍

31
192

東京圖書齋

一 九 一 一	二 號	六 架	三 一 函	屬 類
------------------	--------	--------	-------------	--------

圖書目



31

192

036007-000-7

31-192

讒謗法論

ホワード・ビンセント/著

M16

BBP-0624

